

和書類

和書類

和書門類	一八八三	二二二	九	三
	號	函	架	冊

和書類	一八八三	三	五	函	架
	號	冊	架		

隨筆

內閣文庫	
番號和	18883
冊數	3 ( 1 )
函號	207 119

207-119

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

G Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak



過庭綺談

春堂主人著

淺草文庫



景ノ詩ノ太宰春臺カ作非ニ論セシ通リ諸方ニ瀟湘八景ニナラ

ズテ作リナスドイテハモトクモヘキトモリ勿論シカニ瀟湘八景

誰ニ始リシト云テ知ル人稀ナリ瀟湘八景ト云テハ宋ノ度支

員外郎宋迪畫ニ于テ最モ平遠ノ山水ニ妙ヲ得テ其最得

意ノ畫ニ平砂落雁遠浦歸帆山市晴嵐江天暮雪洞庭秋月

瀟湘夜雨煙寺晚鐘漁村夕照ノ八幅アリ一時ノ觀ル者アレコ

ト是ニ留題シテ名ヲテ瀟湘八景ト云リ起リ沈存中ガ筆

談ニ著ル其後南渡ノ後ノ詩人陳衡仲張叔安周公瑾姜草

然皆西湖ノ景ノ詞トテ其後カレトニ是ニ擬シテ八景ト景

SOL-118

八名ノ中、金三至リ侍、燕都八景アリ、尤人燕都八景ノ詩アリ  
 小曲アリ、明正至テ、永樂ノ間、館閣ノ諸公相集テ、唱和シ、燕景八  
 景ノ名不ヨク盛ニテ、或ハ八景ヲ増シテ、燕京十景ト稱セリ  
 其外所、四方ノ名區ヲ撰ミ、於テ數語足ラズ、陋俗ノ弊  
 日本ハカリテモナシト見ヘタリ、故ニ趙恒夫モ今時十室之邑、三里  
 之城、五畝之園、以及琳宮梵宇、靡不有八景十景詩、可憎甚矣  
 ト云ナリ、其ニ改リテ、十六ノ味ヲ入、林ヲ、齋、賦、ハ景ノ名、八景ノ名  
 ○大宰春臺存非ヲ著ハシテ、專テ稱呼ノ法、題署ノ法、等ノ事ト  
 又説キ置キ、名既ニ其身ノ著シテ世ニ刊行スル所ノ存非ノ卷  
 首ノ題署ニ春臺先生著門人稻垣長章釋明原尚賢子

方同校ト書キテ、春臺ノ姓ヲ不書、是レ左様ニハセヌト、綴ヒ其門  
 人ノ編集タリ、凡テ卷首ノ題署ニ其師ノ姓ヲ著クヘカラズ、極メテ太寄  
 先生著トカ、春臺太寄先生トカ書クヘシテ、況ヤ存非ハ太寄存  
 世ノ内、自身世話ヲシラ、極行サセシ書之、又其序中ニモ、春臺先生  
 トハカリ書テ、姓ヲ書シ、所一折モナシ、是太宰稱呼ノ、暗キ、自  
 身ニ號ニ姓ヲ付ケ書スル、ハセ又、下ナレ、内合リ稱シテ、卷首ニ題署  
 スルニ、姓ヲ著クヘ、曾ツ以テ無キト、是レホトノ、ハ昔ヨリ渡リ來ル所ノ  
 書籍ニ、千ト氣ヲ付テモ、知レル、正ニ惣體物門ノ徒ハ、加様ノ、一切  
 減法多シ、太宰氏ハ物門ノ中ニテモ、加様ノ事ニ、少シハ氣ヲ付ケ、人  
 ナレ、右ノ類ノ、甚多シ、但、徠南郭ナラサ、甚、鹿ノ譯文、筌蹄卷

首ナトモ往侯先生口授武陵僧聖默古有隣筆授ナトハ書文  
皆題署ノ例ヲシラザレ何ニモセヨ書ノ作者ヲ卷首ニ題署スル  
ニ姓ヲ省クク決シテ每キ一ノ又親シキ朋友ナトハ文句ノ間ニサキノ  
人ノ姓ヲ省キテ字ヤ號ハカリヲ書キ詩ノ題ニモ親友親族ナトハ  
サキノ人ノ姓ヲ省キテ字ヤ號ヲ書ノアレ氏文章ノ題ニハトイ親  
友ナリト字ヤ號ヲ稱スレハ極メフ姓ヲ加ルノシカルニ近時ノ學者  
其師友ヲ送ル序文ノ題ナドニサキノ人ノ姓ヲ省テ或ハ號ハカリ  
ヲ書シ或ハ字ハカリヲ書タルイクラモアリ是レ詩題ト文題トヲ混  
シテ其差別スヘキヲ知ラサルニサテ又右ニ云レ譯文筌蹄ノ卷首  
ナトニ武陵ト書タリ左様ノヲ甚非ニ左様ノヲ淺學ノ徒ハカ

如クセサル一切ノ稱呼雅ナラバアハズト思フヘケレモ是等ハ俗ヲ  
雅ニ易ルト云モノニテハ毎ノ唯是乱名ト云モノノノウヘタトヒ萬一  
雅ナシニモセヨ名實ヲ乱リテ雅ナヨリハムシロ俗ニシテ名正シキニ  
カス況ニヤ何ノワケアリテ江戸ヲ武陵ト題セシヤ定メテ東都ハ武  
藏ノ内ニテ武藏ノ武ノ字一字同シキニヨリテ牽合シ借リ用テ題署  
セシナラ左アラハ武陵ノ外ニモ武清武進武城武昌武宣武縁  
武定武邑武鄉武涉武安武功武隆武寧武當武固武康  
ノ類皆諸夏ノ地名ナレハ何レノ氏手前ノ物スキ次第ニ借リ用テ  
白口シカラシヤ面ニノ物スキ次第ニ借リ用ヒハ江戸ニ定ル名ハア  
ルカラス左アラハ乱名ニ非スヤ又武陵ニカキリテ宣ト云ハ何

ハ故アリテ武陵ハ上ツルキリテ亘シクダ其他ハ用ニハカラサルヤ其上  
武ノ字一字似名ハトテ江戸ヲ武陵武昌ナト稱セハ京都ハ山城ノ  
ナレハ京師ノ者山陰某山陽某ナト題署シテモ亘シカラシヤ凡テ物  
門ノ徒ヲセルナ多ク加様ノ一ニ六ニ之ヲ辨セハ所謂更僕不可  
罄ニ

○惣體假名州紙ニハ卷首ニ作者ノ姓名ヲ題署セヌモノ  
本邦ノ假名ニテシタテ名物語リ類ウツホ竹取り源氏物語平  
家物語枕州紙徒然州宇治拾遺芳野拾遺源平盛衰記  
大平記ノ類ヲ始トシテ誰某著ヌナト題署セシタメニ曾テコレ毎  
是假名州紙ノ故實ニテ姓名ヲ題署セヌモノツカラ其作者ノ誰

某名ト世ニアキラカ在ヲ自負トス然ルヲ近世物但徠譯文笠蹄太宰  
春臺ノ辨道書東涯ノ用字格兼燭談ノ類皆ミツカラ姓名ヲ卷  
首ニ題署シテ誰某撰誰某著ナトシルニリ皆本邦仮名州紙  
ノ故實ヲ知ラサルニ之宇士新ノ姓氏解ノミ此故實ヲ存セシユハカ  
卷首ニ作者ノ姓名ヲ題署セズ

○サラ又太宰氏ノ行非ニ凡署姓名者若書郷里於其上但書某  
處某甲而已或有人字曰某處人某甲華人如此ト之ヘリ是ニ夕  
埒モナキ説ナリ凡ソ一切ノ著述ノ前後ノ題署ニ地名ノ下ニ人ノ  
字ヲ付ルノ曾以テナキト人ノ字ハ必ス書クヘカラズモツトモ文章  
ノ句中ヤ又ハ人ノ對シト云クノ人ニト云ヒトク時ヤ唐人カ長崎

ノ公義ハ書キ上ル文疏ヲトヤ登科録ナトニ叙其生之取自出  
類ハ地名ノ下ニ人ノ字書キトコノ人氏ナト氏書ク是ハ格別ノコ  
ニテ題署上ニテハナシ太宰カミルハ凡ソ文字ノ前後ノ題署ノ  
ノ下ニソレトハ同シカラス文字ノ前後ノ題署ニ地名ノ下ニ人ノ字ヲ  
付テ某處人某甲ト書クト大言非ナリ方ニタトヒ華人如此書シ者  
有リト之氏ソレハ不吟味ナル華人ノスルコトニテ倣フヘカラス惣體華人  
ニモ文盲ナルモノ多シ華人カ尤様ニスル程ニトテ太宰氏カ如ク一  
概ニヨシト思フヘカラスサテ又其ノ地名ヲ書クモイロクアリ非  
ニ去ヘルハ甚粗略ノ作非ニ凡ソ姓名之上書郷里者必書其大名  
不書郷里小名如朱仲晦徽州婺源縣人而書新安新安是其

地之本名世人所共知也ト云ヘリ

此説モ甚アラシ朱子ハ函ノ産シニテ其本國カ新安ニ新安ハ即徽  
州ノ本名ナリ朱子ノ父韋齋ハ本徽州婺源縣ノ人ナリニ仕官  
ニヨリテ函ニ入り函ニテ朱子ヲ生シニヨツテ朱子ト生國ハ函ニテ函  
ノ建陽ノ考亭ノ旁ニ住居セラレシニ然ルニ常ニ新安朱某ト書レ  
シハ其本國ヲ書レシニ故ニ凡ソ我カ姓名ノ上ニ地名ヲ書クハ産シ土地  
ニハカニワスシテ元来ノ本國ヲ書クモノト云證據ニ引ヘシ唯其出生  
小名ハカズシテ國ノ名ヲ書クモノト云證據ニ引ヘシ唯其出生  
セシ土地ノ大名ヲ書クニ非ス然ルヲ其差別モ明メスシテ只其大名  
ヲ書スルト云證據ニ引ヘシハ粗謬ト云ベシ

○タトヒ唯今何レ地ニ居宅ヲシメ住スルトニヨソレニハカニワスシテ  
某國ヲ一書クモノナリ某ハ本下總ノ原氏ニテ数十代下總ニ居  
住セシニ其後ハ下總ヲ去リテ方ニニ居住シ元和年中ニ摂州吹田  
ヨリ京都へ遷リテ某ニテ五代京都ニ居住シ壯年ニ褐ヲ本藩ニ  
釋テ今唐津ニ居住シレヤハリ北總原某トカ又ハ平安原某トカ  
書ク法へ京都ハ元来本國トハイワレ子氏某共ニ既ニ五代居住  
セシ土地ナハ是等ハモバヤ平安ト書テモヨシ元来ハ五代六代住居  
スル土地ナリ氏本國サヘクニ知レテアラハ本國ヲ書ク法ニシカニ  
趙恒夫カ寄園寄所寄今叙其生之所自出輒曰某處籍某  
處人非也 某處籍トハ只今某處 住居ト云フ  
某處人トハ元来本國ハ某處人ト云フ四世而總己服窮而親盡

兵況四世而上焉者予世代既遠而猶曰某處人每謂甚矣ト云レ  
説アリ此説モナルホト一理アリ五六代モ居住セシ土地ナラハタトヒ元  
来ノ本國ニ每クテモソレハモバヤ書クモヨシト思フ今諸侯ノ家中ノ面  
ハ猶更本國ヲ書ヘキト自身ノ上ニテモ或ハ江戸引越大坂引越シ  
京引越ト云フモアリ役儀ヲ命セラレテ國住居江戸住居ナト色  
ニ遷轉スル上或其主君モ封地ノ所易ヘナトコレ有ルナレハ其度コトニ  
地名ヲ書件易ヘキ様決シテ每キ丁左スレハ今家中ノ面々今唐津ニ  
住メハトテ唐津ノ誰某ト書クハ非ニヤハリ元来ノ本國ヲ書クニ唐  
津ノ家中ト云フカ書キ載セタキ時ハタトヒハ本國ハ近江テ今唐  
津ノ旗奉行タル人ナラ漢津旗將近江伍某トト書キ本國肥

後ノ人ニテ今唐津ノ藩頭タル人ト云漢津ノ騎長南肥前某田知  
書キ本國大和ニテ會奏者番ナリ漢津謁者大和藤某ナリ書  
キタトヒ何役タリ氏以例ニ准シテ唐津ノ何役ト云フ上ニ書クヘシ  
左ニハ唐津家中モ知レ元来ノ本國モ明カヘ唐津ニ限ラズ諸家  
准知スヘシサテ惣躰地名ヲ書クニタトヘハ唐津ノ唐字ヲ漢ノ字  
ニ准シトテ書キカユル様ナルヲナスヘカラス唐ノ字ト漢ノ字トイッレモ  
カラト讀ムト云フハ日本キリクニテ華人ハシラストヘシカシ唐津  
ハカリハ漢津ト書クカヨシワケアル故ニサテ又唐津ノ家中東都  
郎中ニ數代住居ノ面々ニ氏東都誰某トハ書クヘカラスヤリタトハ  
側祐筆ヲツトムル人ナレハ漢津ノ侍史近江守某ナドハ書クカヨシ

文章ノ奥ナリニ題署スルハ漢津侍史近江守某書於東都郎中ナ  
トハ書クカヨシ是モ唐津ハカリニ限ラズ諸家はニ准知スヘシサテ又何  
方ニ居住スルニモセヨ元来ノ姓ノ望ヲ書ク法モアリ望トハ其姓ノアラ  
ハタル土地ノ下ニ唐ニテ琅琊ノ王氏大原ノ王氏北海ノ王氏陳留  
東海高平京兆天水東平新蔡新野山陽中山  
章武東萊河東ノ王氏ノ如キ是ナリ王氏ノ二十一望劉氏ノ二十五望  
是レ望ノ多キ姓ノ又望ノ每キ姓モアリ日本ニテモ近江ノ佐々木  
浅井京極播磨ノ赤松甲斐ノ武田伊豆ノ北條相摸ノ握原  
出杉長尾肥前ノ松浦肥後ノ菊池豊後大友下總ノ千葉  
相馬ノ原木内鍋木圓城寺ノ類皆其ノ姓ノ望ト云モノナリ



望ノ明カナルハタトヒ今何レノ地ニ居住シ何レノ國ニ仕官スルモ其居地  
ノ書スレテ望ヲ書ク法モアリ唐ノ柳宗元ハ數代京師ニ居住ノ  
京師ノ産ナレモ常ニ河東柳宗元ト書タリ河東ハ其姓ノ望ナレハ  
唐汝詢カ唐詩解ニ宗元ヲ河東ノ人ト思ヒテハ誤之明ノ文徵明  
其子文彭皆數代蘄州府ノ人ナレモ文彭ハ常ニ雁門ノ文彭ト書  
キ王世貞モ數代蘇州府ノ人ナレモ琅琊氏書キ王錫爵モ蘄州  
ノ人ナレトモ大原ト書キ劉鳳モ蘄州ノ人ナレモ沛國ト書キタリ  
是皆其姓ノ望ヲ書キシメテ日本ニテモ望ノ明カナル姓ハ右ノ  
通りニ望ヲ書スルモヨシトモ不レトモ不レトモ不レトモ不レトモ不レトモ  
○存非ニ又凡文字與人示人及書畫為人者必書姓名或但書

名雖貴者於賤者亦然禮也是亦祖略之怠度ニタル文字ニハセヌ  
ナレナルホト輕キ文翰詩書畫ナトハ但名ハカリ書スルノモアリ  
併左様ノトキ姓ヲ省キテ名ハカリ書クハ雙名ノ人ニカキリシトニテ單  
名ニハ決シテセヌトノ單名ナレハ必ス姓ヲクワヘテ書スモシ單名ニテ姓  
ヲ加ヘサルハ同姓同宗一族ヘ贈ルカ又ハ門人ヘ贈リシ文翰ニ同宗ノ一  
族ヘ對シテハ單名雙名ニ限ラススヘテ姓ハ稱セサルモノノ加様ノト太  
宰ハ知ラスシテ書サリシヤ又シリナガラ祖畧ニテ書サリシヤ又君ヘ奉  
ル疏奏ノ類ニ我カ官位ノ下ニ臣某ト書テ姓ヲ去ルアリ是亦心得  
ニシ又存非ニ凡搨印章書札及詩文贈人者皆當印名若右  
二印者其一必是名其二則字號古語或諸般印皆可但印

字號而不印名是為不恭倭儒往々有此過上之ヘリナルホト但印  
字號而不印名是為不恭ト之ヘルハ大ニ是之シカシ是モ加程ニ辨ス  
ル位ナラハ其說粗略ナリ凡ノ人ニ贈ル書札詩文章ナドニ印ヲ搦  
スハ其一ハ必姓名其二ハ必字ナルヘシ其姓名ノ印雙名ノ人ハ姓ヲ  
省テ名ハカリタルモアレドレハ後世ノトニテ本式ハ雙名多ク氏必ス  
姓ヲ加ルトシテ號ノ印古語ノ印諸般ノ印皆可トイエレ氏左様ノ  
皆不可ト左様ノト皆近世ニ起リシトニテ本式ニ非ス太宰觀世ノ  
學者西行不忍見其非存之以示小字輩名曰作非トイエレ位  
ナラハ夕トヒ華人ノナス所夕リ氏近世ニ起リテ本式ニ非サルトハ華  
人タルメニ其非ヲ存ノ用ヒルヲヨシトス関防ノ印ハ古語トモ

齋号軒号堂号ノ類ニ氏是ハ勝手次第格別ニ又姓名ノ印ノ下ニ官  
職アル人其官印ヲ押スト是亦格別ニ惣躰元明以後ノ歷々名凡唐人  
ノ印ニモ色々ノ印ヲ押名アリ是ハ嬉戲ヨリ起リツツハ奇ヲ好ヨリ起  
リツツハ印章ノ本式ニ暗キヨリ起リシトニテ倣フヘキトニ非ス  
○作非又複姓ノ一字ヲ摘キリテ軍姓ニスルヲ論シテ複姓ヲ單姓  
ニスルハ非ニヤハリ複姓ナリニ用ユルヲ是トスヘシト云ヘリ是ニ甚論アルト  
ニテ先ツ弟ニ姓ト氏トノ根本ノ實議ヨリ會得セサル内ハ何レニ埒  
ノアカストニテ姓氏ノ一太宰ハ一向ニ暗昧不知ナル様子ニ姓氏ノ一ハ  
宇士新ノ姓氏解假名州紙ナレ氏甚好シ彼書ニ委ク論辨スル上  
ハ今姓氏ノ差別ノトヲ逐ニ論スルニ及ハズ唯存非ニ之ヘル複姓ヲ

單姓ニシテ稱スルノ是非ヲ略々ニ論スルニ宇士新ノ說ハ複姓ハ何  
ニモ修シテ單姓ニスルカヨシト云ヘリ士新ノ云ル修スルト云ハ但徠ヤ  
南郭ナドカ徒ノ自稱スルニモ稱人ニモ詩文筆札ノ期ニノソシテ假リニ  
中華ノ風俗ニ擬ノ暫ク一字ヲ摘切リテ單ニスルト云科簡ニテハサカ  
ナレ修スルト云ハタトハ敕使河原ト云姓ナラバトシト思ヒ切リテ更メ  
修シ我ヨリ初テ子孫永々敕使ニナリ大久保ナラバトシト思ヒ切リテ保  
氏トアラフタメ蜂須賀ナラバトシト思ヒ切リテ蜂氏トアラフタメト云トシ詩  
文筆札ノ期ニノソシテ當分ニカナヘニテヨツト假リニ一字切リテ用ユルト  
云トニテハサカク毎シソレ故右ノ如ク修セシ人ハ其修セシ通リニ脛ヨリモ  
稱スルト勿論ナレモ修シモセス複姓ノ人ヲ脛ヨリ一字切リテ單稱スルハ

決シテセヌカヨシト云ヘリ又同シ修スルニモ唐ノ姓ニナキ字ナレハイヨク  
ヨシナリタケ唐ニアル姓ニニキレス様ニセヨト云ヘリ但徠南郭ノ徒ノス  
ルハ左ハ非ヌテツト見テハ同シトナレ其心根格別相違セリ但徠南  
郭ノ徒ノ仕様ハ假リニモ唐ヘ似セル科簡ニテモトヨリアラフタメト云科  
簡ニテハ無ク唯文翰筆札諸ノ題署ナトニ不雅ニナキ様ニ當分假  
リニテヨツト一字切テ用ユルト云科簡ニテタトハアノ方ニテ詩賦ナトニ  
司馬相如カトヲ馬郷ト稱シ東方朔カトヲ方朔ト稱シ諸葛亮ヲ葛亮  
ト稱シ歐陽ヲタ、歐ト稱スル格ニカリソメノコニ思ヘリ故ニ少シモ唐ヘ  
似セタカリテ守野氏ヲ守氏ト稱シ芥川氏ヲ介氏ト稱シ堀氏ヲ屈氏  
ト稱シナトシテ本ハ曾以テ思ヒヨリモセヌトヲ脛ヨリヤニハニ屬

唐人ニ作リナセリ但殊南郭ノ徒ノ仕様ハ誠ニワケモナキ兒戲同前  
ニテ如坎ノカタヲ見テ太宰カ如坎以惑人尤非以爲實録而  
示後人也ト云ヒ近日乃覺其非ト云ヒハ至極尤ナルホト姓氏ヲ  
兒戲同前ニシ太宰ガ且倣世之操觚者流時草人之複姓ト  
云様ナレシカタヲセシヨリハヤリ複姓ナリニ用ユルカ万々ニシテ  
モシ又宇士新カイヘル通リ少シニテモ字ニ志アル者ハモトヨリ  
及ハス凡ソ一藝ヲ好ミ名ヲ死後ニゴサシ思フス節義ヲ立名ヲ揚  
シト思フ人武功ヲナシテ名ヲ著サト思フ人陋ヲ文ニアラタメ  
俗ヲ雅ニカエ夷ヲ華ニ變シ流俗ニ溺レヌシテ人々々々ニ我ヨリ  
修シアラフクメテ草姓ニセシハ何ノコノロヨキヲカ是ニ過シヤ併  
シ士新ノ説ハ今

ノ氏ハ姓ノ姓ニメ氏ノ姓ハキワメテ一字ニ限ルモノユヘニイカ  
体ノ苗字ニテモ是非一字ニスルカヨシト云ヘリナルホト姓ヲ主ト  
シテイハハ九様カレト氏士新モ云ヘル通り既ニ今ノ氏ハ氏ニメ  
姓姓ニメ氏姓ト氏ニテ一ツニ兼合タルモノナハ不雅ナル苗字  
ニテサヘ無ク是非一字ニスルニ及フニキフニ既ニ是姓ニメ氏  
ノ氏ハ二字ニテモクルシカラサル法ナレハ不雅ナル苗字ハキハ  
メテ修シアラフタルカヨシサキニ云ヘル敎使河原大久保蜂須  
賀大須賀ノ類其外朝比奈久留島大田原小笠原日根野美濃部  
長菩川日下野小野澤小野田喜多村小野寺佐久間佐々木大河内  
野山神府田五十嵐ノ類枚挙ニイナラズ加様ノ類ハ是非修シテ  
一字ニセサレハ文翰ニモ記録ニモ載セ難ク

ケレ自然ト名モ後ニ傳リカク又強テ載スハ陋俗可耻又此神  
畠山磯<sup>一</sup>笹畑ノ類モト皆作リ字ナハ猶サラ言フニ及ハス又ニ  
字ノ苗字タリ氏不雅陋俗ナルハ必ス修シテ一字ニスヘシ是即先祖  
ハ孝行子孫ノ徳業ニ太宰ナトカ思ヘル様ニ假リニハ草称セ又  
カヨシ假リニ單称スルト云科簡ナラハイツソセ又カヨシタトヒアラ多  
難キ身分ノ人タリ氏ナリタケハ思ヒ切テ何卒修シアラタムルカヨシソ  
レ氏ニ是非アラタカクハ内々ニテ手前ノ科簡ハキント修シアラ多  
テ子孫永ク修シ名姓ニキワメテ文翰記録一切ノ題署ハ言フニ  
不及世間ノ通用ニモサ、ワラタメケノトニハ修シタル姓ヲ通用シイミ  
テノ姓ハ假リニ稱スルヲモテムキハカリノトトスヘシ是ヤハリ淨土宗

トニ氏何宗ニ氏檀那寺ヲ頼ミテ其宗門ニナリテ居ルト同シトニテ  
ソレハヲモテムキハカリノトニテ手前ノ科簡ハ地獄ヘモ極衆ヘモ行ク合  
点ニテアラサルト同シ國制國風ヲハカラスメ強ヒテナスハ大ナル僻  
カトシ日本ニテ古ハ是ヲ行セシ人アリ管原大江清原ノ諸公皆  
然リ後諸公服カラバカリ其姓ヲ草称セシニ非ス自ラヨリ文雅ノ  
事ニハ必ス草称セラレシニ故ニ自ラ服ヨリモ草称スルコトナリルニ是  
非ヤムコトヲ得スハカクノ如クスヘシサテ又存非ニ百里端木石作新垣  
高堂ノ類ヲ引テ中國ニモ複姓アリ何異於我複姓也ト云々氏是等ハ  
皆氏ノ姓ニ非ス秦漢以前ノ氏ハ二字ノ氏モトヨリアケツクシガタシ  
青陽氏 倉林氏 有崎氏 駿夷氏 陶唐氏 豕韋氏 唐杜氏

伊耆氏 行官氏 公孫氏 公羊氏 穀梁氏 澹臺氏 公冶氏 南宮  
氏ノ類 其外逐一枚挙ニイテアラズ 是皆氏ニメ 姓ニ非ス 姓ハ元来  
極テ一字ノモノニ故ク 秦漢以前ノ姓ニ 二字ナルハ 決シテ 毎シ然ラハ 太  
宰ノ 論セル所モ 姓ノ一ニハ 非スモトヨリ 今日ノ氏ノ一ヲ 論スルハ 一ヨク  
氏ハ 二字ニテモ 三字ニテモ シルシカラズト 誰モ思フヘケレモ コノカ 某太宰  
ハ 姓氏ハ 一向不知暗昧ト云テ 秦漢以後ノ 姓氏ト 秦漢以  
前ノ 姓氏ト 日本ノ 今ノ 姓氏ト ハ 一ツニハ イワレヌトアリ 太宰 左様  
ノワケヲ シラサルコトニ 是ヲ 引ケリ 存 非又 夷人進於 中國者 猶不  
敢改其 本姓 如 解 律 解 斯 賀 蘭 賀 若 宇 文 耶 律 之類  
可見 兵トイヘリサテ 太宰氏ハ 唐ニサヘアルトナハ 何テモ 角テモ 手

本ニ引テヨキトト 思ルカヤ 不正 不雅 陋俗ナルヨロシカラヌトヲ 手本  
ニ引ハ 日本ニアル 名ケノ 不正 不雅 陋俗 彙カラストハ 唐ニハ 猶サ  
ライヨクアリシモ 手本ニ引テ 安心セラレヤ 惣体 唐ニ手本カアロ  
カアルニイカヨキトハ 二子ルカヨシスルカヨシ 惡シキトハ エスカヨシニ子スカ  
ヨシ 夷狄カ 中國ニ入テ 其姓ヲ 修セス 者モ 有ルトテ ソレヲ 何ノ手本ニ  
引トカアル 夷人ノ 中國ニ入リシ者 其姓ノ 陋俗ナルヲ 恥テ 或ハ是ヲ 修  
シ 或ハ是ヲ 改メ 夷ヲ 華ニ 變ヤシ 者 拓拔 魏ノ 孝文帝ヲ 首トシ 其 救  
枚挙ニイトニアラスシクハ 我邦ノ 安部 仲磨ガ 唐ヘ入テ 姓名ヲ 晁  
衡トアラタメ 小野ノ 妹子ガ 陪使ヒメ 姓名ヲ 藤原 高ト改メ 藤原  
多葛 野磨ガ 唐ニ使シテ 興能ト 稱シ 多治比ノ 真人 廣成ガ 遣唐

使トナリテ改テ丹輝廣成ト称シ桑原腹赤カ唐人ヲ接待ノタメ  
ニ詰ラテ都良香ト改メシイカニソヤ 我邦ノヨロシキ例ヲ引カズメ  
遠キ夷人ノ中国ニ進ミテ不正不雅陋俗カ例ヲ手本ニ列ルハ且  
世俗ノ所謂抄子ヲ定規ニスルニ非スヤ何非又如題姓名而單其  
複姓則相乱者甚多當持尚不可的知其人数數十百年後乎  
ト之ヘレ氏相乱ル、ト相乱レサルハ其人ニ存ス、トテ世ニ名ヲ知ラズ人  
コトハタトヒユ字十字ノ姓ヲ其ニ用ヒタリトテ人豈是レヲ知シヤ  
姓ヲ一字ニシタリトテ紛レシキ人カニギル、モノニ非ス乱レシキ名  
カ乱ル、モノニ非ス管江清橋ノ諸公晁衡蘓固高都良香  
ナトニテモ見ルヘシ 結句 陋俗ニ長キ姓名ハ言ヒ難ク覺ヘカタク紛

ラハシクテ乱レヤスシ其上辨慶ヤ西行ナト苗字ヲイワサレ氏紛ル、ト  
ニ非ス太平記ノ末ヨリ近代ノ軍記ノ内ノ人ノ名ヲ世間ニヨク覺ユル  
モノスクナキハエリ陋俗ニ長クテ喜多河内與三左衛門長治ナド  
、云様ナナガクシキ名多キユヘニ讀ム内モ紛レテ覺ヘズ又日本  
記ナトニアルナカクシタル姓名猶サヲ紛ラワシク乱レヤスク覺ヘシクシ  
萩生惣右衛門ノヲノ字モナレ氏物茂卿トイハ萩生惣右衛門ノ  
トトエテシラヌモノ毎シモシ又シハ皆名高キ人ノトシ名ノ高カラヌモ  
ノハ左様ニ一概ニハイワレヌトエテ今ノ世俗ノ人ノス様ニ右ノ喜  
多河内與三左衛門藤原ノ長治トナガク十書タリトテ知ラヌ人ヲ  
人知ルモノニ非ス覺ヘヌ又名ヲ覺ヘルモノニ非ス知ラス覺ヘサレハ紛レ

モスル乱レモスル覺<sup>レ</sup>モセズ知リモセズ姓名ヲ誰カ又數十百年ノ後  
ニ其人ヲ的知セシヤ故ニ唯禮法ニ合スルト合セサルトヲ吟味スヘシ  
相乱ルト相乱レサルトトハ複姓單姓ニヨルトニ非ス

○存非又人有姓有氏姓者統祖宗之所自出者也氏即族也  
族者別子孫之所由分者也天子諸侯言姓不言族其下必有  
氏族則稱其族古之道也ト云ヘリ天子諸侯言姓不言族古之  
道也ト云ヘル是亦ケシカラ又杜撰妄說也凡ラ古ノ道ハ姓ハ男子ノ十  
ノルモノニ非ス天子ヨリ庶人ニ至ルテ男子ハ氏ヲ稱シテ姓ヲ稱セズ  
女子ハ姓ヲ稱シテ氏ヲ稱セズ是古ノ道也堯ノ姓ハ祁<sup>祁</sup>氏ハ陶唐  
故ニ唐堯トハ稱スル氏遂ニ稱<sup>祁</sup>堯ト稱スルナシ舜ノ姓ハ姚ニシテ

氏ハ虞故ニ虞舜トハ稱スル氏遂ニ姚舜ト稱スルナシ禹ノ姓ハ姁<sup>姁</sup>ニメ  
氏ハ夏故ニ夏禹トハ稱スル氏遂ニ姁禹トハ稱スルナシ湯ノ姓ハ子<sup>子</sup>ニメ  
氏ハ商其後殷氏稱<sup>以</sup>故ニ商湯殷湯トハ稱スレトモツイニ子湯ト稱  
スルナシ周ノ姓ハ姬ニシテ周ハ其ノ氏<sup>之</sup>故ニ文王武王ノヲ周<sup>祭</sup>  
周昌トハ稱スレツイニ姬昌氏姬<sup>祭</sup>トモ稱スルナシ是皆服ヨリガ  
リ稱セシ辭ニ非ス其自稱<sup>シ</sup>ユ<sup>ト</sup>モ姓ヲ稱<sup>シ</sup>ユ<sup>ト</sup>フト云<sup>フ</sup>決<sup>シ</sup>テ  
毎<sup>キ</sup>ト<sup>ハ</sup>周公ノヲ後世ノ詩賦ナトニク<sup>ク</sup>姫旦ト稱セシ<sup>ト</sup>アルハ  
後世ニテ唯詩賦ノ中ニ稱スルカリシメノ作為ニテ古ノ書ニ決メ無キ<sup>ト</sup>  
ニシテ自身ニ姓ヲ稱<sup>シ</sup>ユ<sup>ト</sup>猶サ<sup>ラ</sup>ナシ又右ノ唐虞夏商周  
ナトハ皆後世ノ唐宋元明ナトノ格ノ國號ト心得ル人アリ是ニク



大ナル誤、滌以後、天下ヲ有ツ人ハ皆其氏ノ外ニ國號ヲ別ニ建レトモ  
滌以上ノ國号ハ皆其氏ヲ稱セシメ、氏族博考ニ天子諸侯建國  
故以國為氏、虞夏商周魯衛齊宋之類是也、トイヘリ、己人唐  
虞夏商周モト皆地ノ名ニメ氏トシ、玉トシ、其氏ヲ其世ノ号ニモ稱セシ  
メ、近ク我邦ノ足利ノ世北條世ト云ヘルニ髣髴アリ、滌以後ノ國号  
ハ大ニ異ニ、此事ハアノ方ニテモ歴々ノ大儒モ心得違シ人イクラモアリ  
唐虞夏商周二限ラズ、春秋ノ諸侯魯衛齊宋ノ類、其國ノ名ハ  
皆其領主ノ氏ニ、其内ニタニクハ二氏ヲ稱スルモアリ、齊ハ姜姓  
ニテ本氏ハ呂、後ニ齊氏トナル、史記ノ齊世家ニ、後其封姓故  
曰呂尚トアル、姓ノ字ハ唯苗氏トスト云フニテ、姓ト氏トヲワケテ云

フ時ノ姓ノ字ニ非ス、秦滌以後、姓ト氏トノ差別混乱セシコヘニ、史  
記ニハ唯苗字ト云フヲ姓ト書タリ、秦ハ嬴姓ニテ本氏ハ秦、後ニタ  
趙氏ヲモ稱ス、齊モ魯、衛、宋、鄭ノ類、皆其領主ノ氏ニシテ  
國ノ名ト云フバカリニ、非ス、惣体春秋ヤ滌以上ノ諸侯ノ國ノ名ヲ  
日本ノ今ノ諸侯ノ如ク、國ノ名ト領主ノ氏ト別ナリシコト心得  
ルハ、大ニ謬、太宰春臺先生カ、ルヲ曾ツ以テ知ラズ  
唐虞夏商周ノ類ヲ後世ノ天下ヲ名テ、ル國号ノ如ク心得、魯衛  
齊宋ノ類ヲ皆唯國ノ名トハカリ心得、ソレユヘイツレモ皆其氏ト云  
モノ別ニ見ヘサルニヨリテ、氏カ見ヘヌカラハ皆姓ヲ稱セシナラント、妄  
意ニ推量シテ、古ノ天子諸侯言姓不言族ト云フト見ヘタリ、古

天子諸侯ノ姓ヲ稱セシ證據何レノ書ニ出ルヤ唐虞夏商周ノ  
天子姓ヲ稱セサリハ今段々悉ク通りノ古ノ諸侯姓ヲ稱セシタリ  
是亦曾以テ毎レ齊ノ姓ハ姜ニシテ氏ハ齊氏呂氏稱ス故ニ太公望ヲ  
呂尚トハ稱スレ氏姜尚ト稱セシテ遂ニコレナシ太公望ノ子ヲ呂伋ト  
ハ稱スレ氏遂ニ姜伋ト稱セシテ齊ノ小白トハ稱スレ氏姜小白  
ト稱セシテ遂ニコレナシ懿公ノ齊商人ト稱シ昭公ノ齊潘ト稱シ  
靈公ノ齊環ト稱セラレシトハ見テクレ氏イニ夕曾テ姜商人姜  
潘姜環ト稱セラレシト毎レ晉ノ悼公ヲ晉周ト稱セシリハレ氏  
姬周トハ稱セズ衛靈公衛赤トハ稱スレ氏姬赤ト稱セズ其外皆  
然リ一々教ヘ奉ルニ及ハズ太宰手近キ左傳ノ公ノ年ノ

疏ニ諸侯之氏則國名是也トアルヲ見スヤ兔角天子諸侯ヨリ下  
士庶人ニ至ルニテ古ヘ男子タルモノ、自称ニモ他稱ニモ姓ヲ稱スル  
之ヲ根カラ決シテ毎キ一ノ男子ハ必氏ハカリヲナル婦人ハ姓ヲ稱シ  
氏ヲ稱セズ齊ノ女姜氏ト稱スレ氏齊氏氏呂氏氏稱セズ春秋ノ  
夫人姜氏文姜哀姜ノ類見ルヘシ周魯衛鄭ナドノ女ヲ姬氏ノ  
伯姬ノ叔姬ノトハ稱スレ氏周氏ノ魯氏ノ鄭氏ノ衛氏ノ伯周ノ叔  
周ノ伯魯ノ叔魯ノト稱セシテ曾以テコレ毎レ通志氏族序ニ男子  
稱氏婦人稱姓ト云ヒ五雜俎ナドニモ三代以前男子稱氏婦人  
稱姓ト云ヒ朱子モ姓ハ只是女子之別故字從女男則稱氏如  
李孫氏之類春秋可見ト云ヒハ皆天子諸侯ヨリ庶人ニ至ル

ニテノ通禮ヲ云ハレ然ルニ太宰天子諸侯言姓不言族古之道也トイヘルハイカナル一杜撰妄説ソヤ惣躰春臺ノ徒ハ聖人ノ道ハ禮樂ノ一ト云テ禮樂ノ一ハ甚知リ自慢ナル様子ニ聞及ヒレニ加様ノ通禮ノチ近キ禮サヘカクバカリ不知暗昧ナルハイカナルコカ合巨ユカズソノウヘ氏ハ即族ノ一サレ天子諸侯ノ上ヘハ氏トハイヘ氏族トハ云ハズ士大夫ニテハ族氏云レ氏ト云フ太宰是ヲモ知ラスメ天子諸侯ノ氏ノ一ヲモ族ト書タリ氏即族也ト云フバカリヲ知テ其中ニ稱スル所ニハ差別アルヲ知ラズ

○何非又我 日本人亦有姓族既立之族則當稱其族稱族者所以的知其人也今人乃有舍族而稱姓者姓之兩被甚

廣云云ト云リ是亦大ナル杜撰妄説ニシカレ是ハ太宰一人ニモ不限世上ノ人加様ニ謬リテ心得居ル者多キコトニ太宰ハカリヲ笑フヘキニハ非レモ是ハヤハリ世俗毎字ノモノ思ヘル通りニ源平藤橘ノ類ヲ姓ト心得源平藤橘ノ類ヨリ分レテ唯今用ル所ノ苗字ヲ氏ト心得之是ハ大ナル謬妄ニレソ日本ノ姓氏是ハ姓是レハ氏トニツニ分ツ日ハ源平藤橘ノ類モ皆<sup>姓</sup>ニハ非ス國史ニ賜源姓ノ賜平姓ノト有ルモアレハヤハリ唯今ニテモ賜松平姓ノ諷姓ノ草姓ノ姓ハ何氏ノト云フ姓ノ字ト同シ義ニテ姓ト氏トヲニツニ分シコノ口ノ姓ノ字ニハ非ス唯何ノ事モナク苗字ト云フニ然ルヲ世俗ニ國史ニ之レ賜源姓ノ賜平姓ノト云類ノ姓ノ字ニ限リテ姓ト

氏トヲニツニ分ル時ノ姓ノ字ニ心得ルハ大ナル謬シクヲイカニト  
云ニ右ニ云ル如ク氏ト姓トヲニツニ分ツ日ハ姓ハ平生男子ノナルモ  
ノハ非ス然ルニ源平藤橘ノ類頼朝時分ニテハ士庶人ニテモ平生  
是ヲナリ今テモ公家ニハ平生是ヲナリ士庶人ニテモ平生  
ハソノウノ國史ノ賜源姓ノ賜乎姓ノナトハ非類姓ト氏トヲニ  
ツニ分ケシ意ノ姓ノ字ナラバ姓ハ男子ノナルモノニ非スハキワメテ  
姓ハ源氏ハ何ト賜ル答ニ然ルヲ別ニ氏ヲ何ト賜ハラスシテタハ  
源トナシ平トナシト云テ賜リシモノハ姓ト氏トヲ分ツトキノ  
姓ナレバキワメテ姓ニ氏ヲソノテ賜ハルモノハ故ニ天子賜姓命氏ト云  
ヘリ武王胡侯ニ姓ヲ賜ト賜シ類故奉ニイフニアラスイツレモ姓

ヲモハル位ナレバキワメテ別ニ氏ヲソノテ賜ハルトハ氏ヲ賜ハラサレバ勇  
子ノナルモノナシモシ其姓ヲナラバ姓トハ云ハズシハヤハリ氏トイフ  
モノハ愚妄在人此説ヲ聞テ其理屈ハ皆唐ノ法也日本ハ  
日本ニテ唐ノ禮法ト同シカラサレハ日本ノ源平藤橘ノ類ハヤハリ姓  
ハ唐ニテハ男子ハ姓ヲナラス禮法ニテアルケレバ左ニハ非ス國史ニ  
ナカイテ男子モ姓ヲナル法ナルヘシト思フケレバ日本ニテハ唐ト  
イエル賜姓源賜姓乎ノ類ハヤハリ源ト云苗字ヲ玉フ平ト云苗  
字ヲ玉フト云テテ漢皇ノ妻敬ニ賜姓劉武帝ノ日磾ニ賜姓  
金隋煬帝ノ章仇大翼賜姓盧魏ノ世祖ノ禿髮賀ニ賜  
姓源シ類ニテ今ノ賜松平姓ト云フト國史トハ唯何ノトモナク

苗字トエフコノ姓ト分テキノ姓ノ字ノ心ニテハサテノ毎シノ  
レユヘ昔ヨリ今ニ至ルニテ源平藤橘ノ類ノ其族ニ長シタル人ヲ氏  
ノ上ニ氏ノ長者源氏長者藤原ノ長者ナドハ云ヘ氏姓ノ長者モ  
姓ノ上ニ氏云ハズ又其禊スル所ノ神ヲ氏神ト云ヘ氏姓神ト云ハズ  
又夕ト云ハ藤氏ナトモモト 仲哀天皇ノ時ト部ノ姓ヲ賜ハリ其後  
常盤ノ大連ニ至テト部ノ姓ヲ改テ中臣ノ姓ヲ稱シ其後鎌足  
ニ至テ中臣ヲ改テ藤原ノ姓ヲ賜フ姓ト氏トヲニツニ分ケル日ノ  
姓ト云モノ左様ニ毎度改ムルモノニ非ス既ニ毎度改メシタルハ姓  
トハイワレス尤別ニ新ニ國ヲ建テ氏ヲ命セラル、時今ニテノ姓ヲ  
改テ別ニ姓ヲ云ハルコト有ルコトナレモソレハ格別ノコトニテ藤原氏ナド

ノ例ニ非ス然ラハ姓ト氏トヲニツニ分ツ日ニハ日本ニハ姓ト云モノナシヤ  
曰然リ日本紀以來國史ニ姓ト云ヘル源平藤橘貞笠春統  
大野 高橋 池田 島田 田中 久禾ノ類ヲ初トシテ姓氏録ニ  
記セル所ノ千百八十二氏皆是今日俗ニ云苗字ト云モノニテ姓ト氏トヲ  
分ツ日ノ姓ト云モノハ日本ニハ元來曾テ毎キコトニテ氏ト云ガ即姓  
姓ト云ガ即氏ノ姓ト氏トヲ分チシハモロコシノ古ヘ周以上ニ限シ  
ニテ日本ニハ曾以テ日本ノ通リニテ姓ハ何氏ハ何ト分ツト云フハ  
ナク氏テアロガ姓テアロガウチヨミテ唯姓ト云ソレコヘ司馬遷ガ  
史記以來苗字テサヘハ姓某氏トカク是レ馬遷カ粗ナルニ非ス  
周ノ末戰國ヨリ以來姓ト氏ト皆混ニテ一ツトナリ其混シ乱レシ

正ニ疑リ定リテ姓ト云カ即氏ト云カ即姓ノ一トナリ其後教百  
年今ガ今ニテ唐モ其通リシカシ唐ハ忘ニテ如ク秦漢以後コソ  
左様ナレ氏元来周以上ハ随分姓氏ノ分ハキトシシカリシ日本ハ  
イツ混セシノイツ乱レシノト云段ニテハナク姓ハ何氏ハ何トニツニ分ケル  
ト云法ハ元来最初ヨリ毎リシトシ故日本記ナトニモ三才頭分テ  
以来多歴萬歳是以一氏蕃息更為萬姓ナトモアリ既ニ一氏  
蕃息シテ更為萬姓ト云ル上ハ此一語ニテモ本邦ニ始ヨリ姓氏  
ノ差別ナキヲ知ルヘシ其外ノ記録ナトニモ源氏ノ姓ヲ賜フ平氏ノ姓  
賜ヲナトモアリ最初ヨリ唯苗氏ト云合点コヘシ然ルヲイツノ比  
カ浅学ニメナニヨシヤクナルモノ源平藤橘ノ類ヲ姓ト心得源平

藤橘ヨリシテ中古以来段々色々ニ分レシ今ノ苗字ヲ氏ト心得  
皇朝ヨリ下ル位記口宣ナトニ源平藤橘ノ類ノ古ノ氏ナラテハ記  
シ玉ハガラル見テ皇朝ニテハ姓氏ヲ分テ玉ヒテ姓ナラテハ記シ玉  
ワスト心得一切萬端千トキツトシタル題署ニハタトヘハ姓ハ源氏ハ  
佐々木ナト、書キ或ハ佐々木佐渡守源某ナト、書キ他人ノトヲ  
書タリ稱スルニモ佐々木源公ナト、書キ惜々慥々其非ナルヲ知  
ラズ太宰モ亦其非ナルヲ知ラズヤハリ源ハ姓佐々木ハ氏ト心得テ  
雖我日本人亦皆姓ト氏トノニツアリト思ヘリアワレムベキノ甚  
シキニサテ又國史ニカバ子ノトヲ尸ノ字ヲモ書キ姓ノ字ヲモ書目来  
レリ姓ノ字ヲカケバトテカハ子ノトヲ姓氏ノ姓ト思フヘカラスカバ子ハ

爵ノ類ニテ爵トモ同シカラス段々ノ階級アリテ首尾カヨケハ段々ニ  
改リテ上ホル首尾カアシケレハ奪ハモスル下カリモスル何事ナケハ代々  
モナノル姓氏ノ姓ト格別ノ古ヲ古人謬リテ姓ノ字ヲ用ヒ来リシ  
故ニ凡ソノ国史ヲ著ル時紛ラワシキヨアリ混スヘカラス  
○又堂上方ノ近衛一條二條九條鷹司花山徳大寺ナト去  
レノ類ヲ氏ト心得テ藤原ノ定家氏ハ冷泉 藤原房嗣氏ハ近  
衛 藤原教平氏ハ鷹司ナト、書キシ書アリ是藤原ヲ姓ト  
思ヒ二條鷹司ノ類ヲ氏トモレシ是亦謬ナリアレハ各其  
家号ナリ氏ニ非ス堂上方ニテハ今トテモ其義明カニテ御自  
身ニモ近衛一條二條ナト之レノ類ヲ氏トハサテ心得玉ハズ

唯其ノ家ノ号ト之ヲ御存ナリ又足利時代ノコトヲ室町氏ト書キ  
頼朝北條時代ナトコトヲ鎌倉氏ナト、書クコトアリ是ハ好シ是ハ氏  
ハ室町氏ハ鎌倉ト之ヲニ非ス上古ノ帝王ノ号ヲ称シテ伏羲氏  
女媧氏ナト称シ周ノ官名ノ司烜條狼ノ類ヲ皆司烜氏條狼  
氏脩同氏赤友氏蜡氏萍氏ナト称シ或ハ字ニ子輿氏子  
思氏ナト、称シ伯叔ニ伯氏叔氏ナト、書クト同シトテ姓氏ノ  
氏ト之ヲニ非ス唯ナルコトニテハ氏ノ字ヲツケル例ニシテ何ノ義モ  
ナキツケ字ニ非ス  
○問フ然ラバタトハ佐木氏ノ人ニ付テ之ハ、源ハ唯其本氏ト云ヤ  
曰然リ本姓ハ源氏ニテ後分レテ今ノ姓佐木氏ニカリタルハニ夕

分テ黒田京極朽木松下橋本三井等其外色々諸氏ト  
在トトイテ今分テモ皆ヤリ同前ニテ氏ヨリ氏ノワカレニテ姓  
ヨリ氏ニ分レニ非スソレユヘ反ニ右ニ去如ク源平藤橘ノ類皆ヤ  
ハル氏ナルコトニ佐々木佐渡守源某ナド、氏ヲニツアケテ書キ様  
決シテ毎シモシ又源平藤橘ノ類ハ弥氏ニ非ズ姓ト思ハル猶  
サテ男子ノ姓ヲ称スルト元来曾テ毎キ法ナル上ヘ氏ト姓ト連子  
テ題署スル猶サテ決シテ毎丁々  
向テ然ラハ今世間ノ人物茂卿ヲ始メ今ノ氏ヲサシヨキテ源平  
藤橘ノ類ノ本氏ヲ書ク人多シラレハ苦シカラズヤ曰大ニ非ニ一旦  
分レテ後ハ昔ノ姓氏ヲ題署スルト是亦決シテセスト今ノ苗字

ヲ題署スヘシ大宰氏姓ト氏トヲ分ケテ説ヲ立テシハツカモナキ妄説  
ナレ今ノ氏ヲ書セヨト云ルハ甚好シモシ又他姓ヲ冒セシ人復姓ス  
ル是格別ノ事テ幾代々ナタリ氏復姓スヘシ其外ハ今ノ氏ヲスル  
昔ノ氏ヲ書キ称スルハ非ハ  
○今ノ家系ヲ傳記墓碑等ニ書ク分トハ右ニ去ル京極  
黒田ノ類ナラハ某ニ本姓ハ源氏其先世居近江而為佐々木氏後  
復別為京極氏ト云又ハ京極氏出於近江佐々木氏  
先源氏出自宇多天皇第ノ子。親王ト云文章ノ詳略ヨリテ  
イカ様ニモ書法アルヘシ唯々姓源氏ハ何ノ書スルニテ知ルヘシ  
○今時世上ノ墓碑ノ題署ノ見ルニ法ニカサヒハ甚少シ一向ニ世



俗ノ通りニ戒名ヲ書付ルカ又ハ何ノ何右衛門ナト、書キタハイツ  
チモツカ子氏ナニシイ今時ハ本式ノニ子外レテ非法ノ題署多シ其  
ノ碍文ニ其世系州里名姓行貫生卒ヲ書付ル様ニ多クハ  
アリレキ非法ノ書キヨフユヘニ死者ヲテ俗物又旨思ヒヤラレテ  
アサニキ書キ付ル多シ世上ノ俗人存生ノ内ハ面々ノ格式家カラ  
ナトノヲ何ヨリモ專一ノトニギンニ合テ様トカクハカヲ様ト書テモ  
合点セス仕テ書クヘキ所ヲ致スト書テモ合点セスモ口苗字カタ苗  
字ヨヒハナシカタアケモロアケ様ノ格式ヲ筆セアヘレ死スルカイ  
ヤ後世ニノコルヘキ墓表ノ題署スライカ様ニ書テモヨキノ様ニ思  
ヒテ穢多ク墓ノカキ付モ歴ニ人墓ノ書キ付モ其書法同前ニ取

アツカフソレハ皆媚生慢死厚存薄亡ト云モノニテ禽獸夷狄ノ  
道ニメ人老ノ道ニ非ス存生ノ内格式ヲ筆フ位ナラハ死後ニテモ其  
格式ヲハツサズ様ニスルカヨシ又死タアトハイカ様ニメモテチノカ又  
トトエトナラバトテモ佛者ノ云通り電光石火ノカリノヤトリ夢幻  
泡影ノ娑婆世界ナレハトテモスミハテヌ世ノ中ニ何ノ格式論ヲス  
ルトヤアル皆孟子ノ所謂類ヲ知ラスト云フモノニ非スヤ凡ソ聖人ノ  
道ニテ名分ノ守リヨリ重キハナシ名分一タヒ違ハハ世ハ全ククヲヤ  
シ也名分ハ一切萬端ニアルトモワケテ称号文辞ノ上ニシテハ  
僅カ一字ノ相違ニテ其差別天地懸隔スナニシイナレバカシクテ  
ヲスレハ大ニ名分ヲ僭乱スルト多シ慎ムヘキノ甚シキ是ヨリ大ナルハ

毎シ其識明カニ其学熟シ源ノ倭漢古今ノ禮制ニ達シ事  
理ヲ精察シ時宜ヲ高量シ是ヲ斟酌スルニ非サレハ一切ノ称号  
名分ノ正ヲ得カズ今世俗ノ墓表ノ題署ヲ見ルニアリ種々毎量  
ナレ非法ノ書付ケ有ルユヘニハ論辨シカタクレ氏先諸侯ノ墓碣  
ナトニ夕トハ存生ノ内原曰伊豫守為貞ト云シ人ナレハ原田豫州  
大守為貞之墓ト書キ或故豫州大守原田為貞之墓ト書キ或  
ハ故ノトコノ城主原田源公之墓ト題シ或ハ故豫州太守原田侯  
之墓ト書キ或ハ一國ノ主ナレハ何州牧何州刺史ナト、書キ或存  
世ノ内玄蕃頭大膳大夫主殿頭ナト云シ人ナレハソヲ漢官ノ名ニ  
ナラシテ鴻臚光録尚舎ナト、書クイツレモ皆大ニ非法ニ今ノ諸

侯ト云フモノハ唐ノ刺史太守光録尚舎ナト云ヘル類ヨリハルカニウチ  
アカリタルモノハ唐ノ牧刺史太守光録尚舎ノ類ト一口ニイワルモノニ  
非ス唐ノ牧刺史太守ト云モノハ高下大小ノ差別ハアレトモヒキスリテ云  
ハハ皆其兩ノ奉行ニシテ其所ニ封セラレシハ非ス大守ノ禄ハ皆二千石  
カカノ者ニテ皆今云フ御藏前取ノ士ニテ我知行所トテハ一寸ノ地  
モナキ者ニ濠ノ代ノ制ナト其二千石ノ禄モ月渡リニテ漸ク一月ニ  
百二十斛ツ受ルノ令ニテ所年ニハ現禾千四百四十石ハ今 本邦ノ  
ニアタル甚小身ナモノソレユヘニ其職ヲ離ルハス  
ナワ千庶人處士トナリテ一粒ノ禄ヲモタモタズ其住スル所ハ今ノ  
御代官ニ似タルモノナレ氏 御代官ハ大守ヨリハニ夕ヨシイカナレハ太

守ハ太守ノ職ヲ離レハスクニ庶人處士ニテ地モ祿モナシ故ニ太守ヲ  
ツトメシ人其職ヲ離レ田里ノ歸リスグニ農業ヲナシ商賈ヲナス人多  
シ今ノ御代官ハタトヒ御役義離レタリトテ御旗本ノ格或ト祿トカツテ  
カワラス子孫代々ヤバリ御旗本ノ左スレハ唐ノ太守ハ今ノ御代官ヨリ  
ハ劣リシモノ刺史ハ其ウワ役收ハ又其ウワ役ユヘニ太守トハ大小高  
下ノ差別ハスレ其土地封セシ地ニ非ノ時々入レ替リテ其所ノ奉行  
名トハ同シ鴻臚光録尚舎ナトスル類ハ猶更役義ノ名ニメ今  
ノ諸侯ト根カラ相アツカラヌトシ又今ノ諸侯ヲ城主ト称スルヲ猶サラ  
アタラス諸侯ヲ称シテ城主トスフハニコトノ俗語ニテキツトシ名題署  
ナドニ用ユヘキ詞ニアラズ尤モ城主ト云辭ハアノ方ニモアル詞ナレ氏諸

侯ヲ称ス辭ニ非ズルツ城トハスヘテ其町ヲコメテ云詞ニタトハ江戸ナ  
レハ見付内ノ惣町中ヲコメテ江戸城ト云今世俗ニ云フシロハカリノ  
トニ非ス物茂卿ノ文章ナトニ江戸ノ麴町ノトヲ城西麴坊第ハ  
街ナト書キ類謬リノ麴坊ハヤハリ城中ノ麴坊ノ城西トハ書ク  
ヘカラズ本邦ニテモ古ハ左様ノ字義ニテモ明ク有リシニニ京都  
トラスヘテ称メ平安城トスヘリ皇代ノ時分ニ今世俗ノ云フシロト云  
モノハ京都ニカツテ無リシカレ其時分字義明カレシユヘニ京都ヲスヘ  
称シテカクズヘリ城ハ盛也盛受國都也ト古ヨリ云テ四方ニ土手ヲ築  
テ惣町ヲツミカフノ名ニ今京都ノ四方ノ土手江戸ノ見付皆是レ  
ニシテ長安城洛陽城ノ類然リ左スレハ唐津ニテ云ハ

君侯ハ唐津七萬石ノ御領主ニ唐津ノ町内ハカリノ主ニ非ス柳川侯  
ハ柳川十二萬石ノ御領主ニテ柳川ノ町内ハカリノ主ニ非ス然ルヲコ  
レヲ稱シテ唐津城主柳川ノ城主ナト稱シテ可ナラヤ又墓碑ノ正面  
ノ題署ニ其人ノ諱ヲカクテモトヨリ大ニ非法ニ又惣體國名ヲ豫州  
ノ豊州ノナト書クハアシ、ヤハリ伊豫ナラハ伊豫豊前ナラハ豊前トカ  
クシ又豊前ナトノ類ヲコバシテ豊之前州ノヤレ豊之後州ナト、書  
ク人アリ是亦却テフシ、ヤハリ豊前豊後ト書クハ  
○凡ソ碑面ノ題署ハ誌石ノ蓋ノ題署ト同クスヘシタトハ我カ  
先君侯ノ墓碑ナラハ

唐津侯土井諦了公之墓トカ

唐津侯諦了土井公之墓トカ  
題スヘシ又漢書ノ功名表ナトニ張良カヲ留文成侯張良ト  
書シ蕭何ヲ鄼ノ文終侯蕭何ト書シ揺母餘ヲ海陽齊信侯揺  
母餘トシルセル類是レモ朕ヨリ尊稱スルニハ留文成侯張公海陽齊  
信侯揺母公ト稱スルナラハ殊例ニ准シテ

唐津諦了侯土井公之墓

ト題スルモヨシトヒ小身ノ諸侯タリ凡一万石以上ノ諸侯ニテサヘア  
レハ如以題スルヲ正法トス何レモ其領知ヲ稱メ、一侯ト題スヘシ石  
ノ三様ヨリ外ハ皆非法ナリ東都ノ太宰先生アル諸侯ノ墓碑  
ハ題ニ某侯某府君某公ト題セシナト是亦誤リ、一府君トハ元来

刺史太守ヲ称スル詞ニテモト 諸侯ヲ称スル詞ニアラズ滯以後ハ碑面  
ナシハ士庶人ニテモ府君ト称ス然レテ既ニ上ニ侯ト書シ下モ公ト  
書セシト又中ニ府君ト題スルハ非法ニタトセカニ一アノ方ニ左様ニ  
書シ例アルニモセヨクハ誤ニ據トナスハカラヌ元来ハ御謚號ヲ  
題セシテ  
計外ニ唐津侯土井公之墓  
ト題スヘキ法ナレモ七十年以來唐津ヲ御相續ノナレハ御代々  
皆唐津侯土井公ナルニ御謚号ヲ題セサレハ其題署混同スルニ  
御謚号ヲ題スヘシ 諦リハ御院号ノレヲ謚号トハイカニト  
云ニルテ 本邦近世ノ俗士大夫以上ハ死後ニハ極テ皆院号ヲ

稱スルノ院号ト云フ  
陽成天皇ヲ陽成院ト稱シ奉シヨリ起リ皇后ノ院號ハ一条院  
ノ御母后梅壺ノ皇太后ヨリ起リ攝家ノ院号ハ一条院ノトキ  
右大臣藤原ノ兼家ヨリ始リレテ兼家ノ時分ニテハ攝家ニ  
ハ皆謚ヲ賜ハリテ死後ニハ其謚ヲ稱シタリシニ兼家ハ一条院ノ  
正暦元年病ニヨリテ剃髮シ東三条大入道ト号シ其七月二日薨  
セラレシニ病中出家セラレシユヘニ謚ナシ其館ヲ寺トシテ法興院ト号  
セシニヨリテ兼家ヲ法興院ト稱ス梅壺ノ皇太后モ兼家ノムスメ  
ニテ是モ正暦二年十月剃髮シテ尼トナリ五七東三条院ト号セヨリ  
起リテ元来ヤクタイモ益ギ下ニ況ヤ士庶人ノ身トシテ院号ヲ稱ス

此猶サラ埒モナキトモ近世ノ風俗ニテ士大夫以上ハ極メテ皆院  
号ヲ称スルコトナリ来リテ今ノ俗習ニテ是ヲ称セサレバ上下氏ニ死後ニ  
称スヘキ様ナク上下氏ニ極メテ是ヲ称スルハ世俗ノ通用ニハヤハリ俗ニ  
隨テ某院ト称シ少コレニテモアラタリ名トニハ極メテ院ノ字ヲ除キ  
去リテ 諱ノ公 諱ノ君ナト、 称シ是ヲ私諡トキワムヘシ凡テ  
戒名ヲ私諡ニ極ムルモヨケレ氏今世上ノ風俗戒名ハ平生是ヲ称セ  
スレテ是非キワメテ院号ヲ称スル上ハヤハリ平生通用ノ院号ノ  
院ノ字ヲ除キ去リテ是ヲ私諡トキワメテ用ユルニシクハナシ故ニ院  
号ハ寺僧ヨリツケテコサ又以前ニ此方ニテ何トシ氏其人相應ノ  
諡号ニメ宣シカルヘキ字ヲ二字キワメテ此方ヨリ寺僧ヘ申談シ

寺ヤ世上ノ通用ニハソレニ院ノ字ヲ付ケテ院號ニ用ヒ此方ニテハ  
ソレハ私諡トシテ是ヲ称スヘシ寺僧ニカセシメヲケハ佛語ヲ用ヒ上  
ニ不相應ナル称号多シ故ニ此方ヨリ極メテ遺スヘシ士庶人以下院  
号ナク戒名ハカリナルモ是ニ同シ院号ノナキハ戒名ヲ私諡ニ用ユヘシ  
是レモ此方ヨリ字ヲキワメ遺スヲヨシトス諸侯以下士庶人ニ至ル  
ニテモシ生前ニ隱居名アルハ隱居名ヲ称スヘシ若シ又學者  
分上ニハ生前ニ號ル氏齋號ル氏軒号ル氏アリテソレヲ死後ニモ  
称シ墓碣神主ナトノ題署等ニモ用ユルコトニ私諡毎クテモ宣シ  
ケレ氏号モ字モ隱居名モナキ俗人ハ私諡ナケハ死後ニ称スヘキ様  
ナク題署スヘキ名ナシ故ニ右之ヲク院号ノ院ノ字ヲ除キ去

クテ是ヲ私謚トキワメ稱スヘシ凡ソ謚ト云モノハ君ヨリ玉ハルモノ  
ニテ元來私ニ付クモノニ非ス故ニ禮ニ天子崩則臣下制謚于  
南郊明受之於天也諸侯薨則太子赴告于天子明受之  
於君也蓋<sup>子</sup>不得議父臣不得議君故受之於天於君若卿  
太夫則有司議而謚之トアリテ君ヨリ賜ワルニモ爵每キ人ニ  
謚テ玉ハルト云フ古ハ曾以テナキト之故ニ三代ノ時平士ニ謚ヲ賜  
リ例曾テコレナシ其謚ノアルハ皆卿太夫以上ノ爵每キ人ニ謚  
ヲ賜リハ東晉ヨリ始レリ然レトモ君ヨリ玉ワラサレ氏手前ニテ  
私謚ヲナシ始メバ春秋ノ時ノ黔婁ヨリ始リテ漢以後イヨク  
多クアリ文仲子程明道ナトノ類モ上ヨリ賜リシニ非スシテ

私謚之又婦人ハ夫ノ謚ニ從フ禮ニテ古ハ婦人ノ別ニ謚ヲツキシ  
ハ每キト之ニ其別ニ謚ヲツキシハ周ノ穆王ノ哀淑人ヨリ始レリ  
然レ氏春秋ノ時分ニテモ十人ニ八九人ハヤハリ夫ノ謚ニ從ヘリ名トハ  
哀公ノ夫人ナレハ哀姜ト稱シ宣公ノ夫人ナレハ宣姜ト稱スル類  
皆夫ノ謚ニ從ヒシ之モ子ロク春秋ノ時別ニ謚ヲツキシ婦人モアレヨ  
トアリ故ニ男女共ニ私謚ヲ稱スルト云フ三代ノ正禮ニハ每レ氏今世  
ノ俗右ニ之如ク學者ノ外ハ號モ每ク字ナモ每ク男女上下氏ニ其  
死後ニ稱スヘキ名ナキユヘ是非氏ニ私謚每テハカナワヌ若學者  
分上ニテ生前ニ號アリ字ナル人ハ私謚ヲ立テサルモ却テヨシ  
死後ニモ唯其号ヲ稱スレバ之張橫渠死セシ時程伊川ヲ始ト

トシテ其友人の生ノ徒ヲ私謚ヲナサントシテ司馬温公一人不同  
心ニテ三代以下ノ人物ナラハナルホト私謚ヲナシテモ宜シカルヘケレ氏  
横渠平生其志三代以上ヲ規模トセシ人ナハ三代以下ニ起リシ私  
謚ハイカ、ニトテ終ニ私謚ヲナサ、リキモツトモ至極ニシカシ是ハ生  
前既ニ號アリ字ナアリテ私謚ナクテモ死後ニ称呼ニサシツカヘ毎キ  
ユヘシ今ノ世俗ノ人ハ是非隱居名ニ氏院号ニ氏戒名ニ氏毎ハ死後  
ニ称スヘキ名ナシ院号スナワテ私謚ニ院ノ字ヲユリ用ヒテ私謚  
トシ称スルヲ却テ大ニ禮意ニカナリアノ方ニテハ後世ハ爵位ニヨ  
リテハ謚ニ字数ノ極ニリアリ明ノ代ナトハ皇帝ノ謚ハ太祖ノ外ハ  
極メテ十七字唯太祖ノミ二十一字皇后ハ極テ十三字唯太祖

ノ高皇后ハカリ十五字妃太子太子ノ妃ハ皆二字親王ハ一字  
郡主ハ二字ト極ニリテ其格一定メカワラズ其外文武ノ大臣ニ賜  
ハリ或ハ百官ノ内ニテモ特賜ニテ謚ヲ得ルハ或ハ一字ナルモアリニ  
字ナルモアリ一定ナラス私謚ハ漢以後凡テ二字ツ、付キ来レル例  
ナレハ私謚ハ必ス二字ヲ宜シトスヘシ  
○故ニ凡ソ諸侯ハタトヒ百萬石タリ氏一萬石タリ氏右ノ如ク題スル  
ヲ正法トス 世俗ノ人三公以下ニ公ノ字ヲ用ルヲハ、カリヲモ  
フ人アリ是却テ不然凡ソタトヒ諸侯タラス氏 御旗下ノ諸大夫  
以上ノ御役人ハ墓碑ノ題署神主ノ粉面ナトニ公ト称スルヲ曾テ  
僭越ニアラス是レ孔子春秋以來ノ正法ニ故後漢ノ蔡邕カ朱



公叔力私謚ノ議ニモ禮緣臣子咸欲尊其父君一故雖侯伯子男  
之臣自稱其君咸得レ曰公及其卒也異國之人稱之皆然  
是以邾子許男公以葬春秋之正義也王室之卿大夫亦以  
公配春秋曰劉卷卒葬劉文公公羊傳曰劉卷者何天  
子大夫也其他天子大夫皆得レ稱公ト云ヘリ人司馬温公書  
儀朱子ノ家禮ノ碣石并碑面ノ題署ノ法ニモ有官則某公  
之墓ト題シ無官則某君之墓ト題スト云ヘリ家禮ナトノ法  
ニテハ夕トヒ一爵一官夕リ氏苟モ官并ヘアラハ公ト稱ス況シヤ  
諸大夫以上歷々ノ御役人ヲヤニシテ況シヤ諸侯ヲヤソノウヘ  
惣加様ノ昭ニ用ル公ノ字ハ曾テ公卿大夫公侯伯子男ナトノ

爵意ニアツカルキノ公ノ字ノ義ニテハ毎夕唯其臣子君父ヲ尊  
稱シテ之ヲ辭シ故ニ苟モ一官一爵アル人ノ上ニテハ公ト稱スル  
曾テ僭越ニ非スハ

○凡ソ諸侯ノ奥方ノ墓碑題署ハ其夫既ニ死後ナラハ夕トヘハ

肥後侯浄池加藤公夫人某氏之墓

ト題スヘシ浄池ハ加藤清正ノ院号ノ故ニ私謚トシ題スルニ  
レモ肥後侯加藤公夫人某氏之墓ト分リ題スル正法ナレモ  
シ加藤氏代々相續シテ肥後侯名ハ混同スルコヘニ私謚ヲ用エ  
ルヲ宣シトス凡ソ諸侯ノ奥方ハイカホト小身ノ諸侯夕リ氏皆夫人  
ト稱スヘシ是春秋以來ノ書法ニ凡ソ婦人タルモノ上ニ  
皇太后ヨリ

下庶民ノ婦女ニ至ルニテ一切万端ノ<sub>レ</sub>其名ヲ外ニアラハメ稱スル<sub>レ</sub>甚  
非禮之名トハ平生ニ稱スル所ノ佐與 喜久 登美ノ類是之然ルニ  
墓碣ノ題署神生ノ粉面ナ<sub>レ</sub>婦人名ヲア<sub>レ</sub>ハメ佐與女之墓佐與  
女ノ神主ナ<sub>レ</sub>題署スル人アリ大ナル非法之元未何ニカキラス婦人ハ唯  
姓ヲ書スル等ナ<sub>レ</sub>氏毎々之ル通リ漢以後ヤ本邦ニテハ姓ハ何ニ氏ハ何  
ト云<sub>レ</sub>ナキユニキワメテ氏ハカリテ稱ス故ニ凡ソ墓碣ノ正面ノ題署神  
主ノ粉面ナ<sub>レ</sub>氏ノ字サヘ書ケハ極メテ婦人ノ<sub>レ</sub>ニナル 正面ノ題  
署ノ氏ノ字ハ名トハ僧家ニテ大姉信女ナ<sub>レ</sub>書付ルト同シ<sub>レ</sub>テ  
男子ニハ決<sub>レ</sub>テセヌ<sub>レ</sub>然ルヲ俗間ニテ男子ノ墓碣ノ正面ノ書  
付ニモ某氏ト書キシ<sub>レ</sub>アリ沙汰ノカギリナル<sub>レ</sub>ニサテ石ノ如ク肥後後

淨池加藤公夫人某氏之墓ト題スルハ其夫ノ死後ニ用ル書法ニ  
若シ某夫イニ夕存生ノ内ナ<sub>レ</sub>ハ名トハ

肥後侯加藤清正夫人某氏之墓

ト題ス大存生ノ内ニハ妻ノ墓碣ハ凡テ夫是ヲ建ルナ<sub>レ</sub>其夫我ヨリ  
稱スル辞ユヘニ自身ニ號ヲ稱スヘキ様モ毎ク又公ト稱スヘキ理ニモ  
ルユヘニ夕<sub>ニ</sub>我實名ヲ題スル<sub>レ</sub>唐ニテハ多クハ夫婦合葬ニテ  
多クハ石碑一ツニ夫婦ヲ並ヘテ題署ス若シ或ハ妻ノ碑ヲ別ニ建ル  
必幾年タリ<sub>レ</sub>其夫ノ死シテ夫婦合葬ニ終ルヲ待テ後夫ノ碑ノ例  
ニ建ルユヘニア<sub>レ</sub>方ニテハ夫ノ存生ノ内ニ妻ノ碑ヲ建ルト云<sub>レ</sub>稀ニ左スル  
夫ノ存生ノ内ニ妻ノ碑ノ題署ノ法ア<sub>レ</sub>方ニテハ一ツハイラス<sub>レ</sub>ニ

故ニ司馬公ノ書儀朱子家禮ニ婦人之碑則後夫葬乃立面如  
夫亡誌蓋之刻ト云ヘリ是ハ是非氏夫ノ死スルニテ待ウケテ夫婦合  
葬ノ後ニ建ル碑ユヘニソノ題ニ様如夫亡誌蓋之刻セヨト云ヘルハ  
モトヨリ其答ニサレ氏 本邦ノ事体ニテハ夫婦合葬ト云ナレ難  
キト又妻ノ墓碣ヲタテズノ其夫ノ死後ニテ待ウ名ト云トモ  
ナレカタキトアリ是非氏夫ノ存生ノ内ニ妻ノ墓碣ヲ建子ハナラズ  
類甚多シコヘニ其時ハ必ス如此題署スヘキ是ハ司馬公ノ書儀  
朱子家禮ノ婦人夫在ル寸ノ誌蓋ノ刻ノ書法ニ

○凡ノ人ノ妻タルモハ唐ニテハ周公ヨリ以來別處ニ葬ルト云  
無クキワメテ夫ノ墓ノ側ニ附葬スル法ニテ今トテモ多ク夫婦合

葬ニテ夫ハ左妻ハ右ニ葬ル 此左右ト云ハ墓ヨリ云左右ト云ニ  
向ヒ人ヨリ云ハ夫ハ右妻ハ左 朱子ノ門人

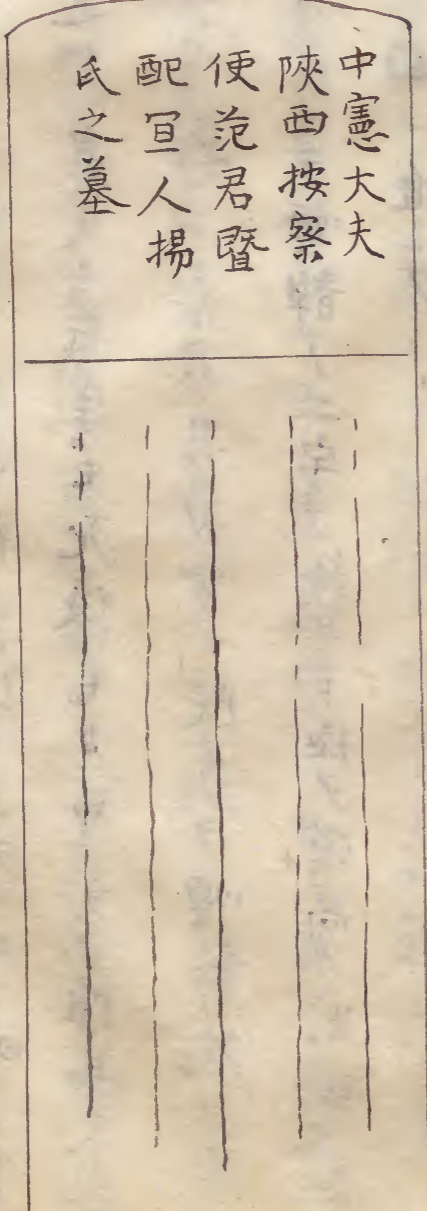
陳淳夫婦合葬ハ何レヲ右何レヲ左ニ葬リテ禮ニカナルト向ニ朱子  
某亡妻劉氏ヲ葬シ時モ西ノ方ニ葬リテ東ノ方ニ畔ヲ自身ノ為メテ  
コシ置タリ左レ氏イヨク是ニテ礼ニカオヒシヤ否ハシラサレ氏世上ワレナ  
ヘテナラワレト通ニニツ行ヒシト答ヘラレシ 是モ南向キノ墓ニハヤリ墓ヨリ云  
夫ハ左妻ハ右ノ葬リカタナリ

陳淳又地道ハ右ヲ尊フナレハ恐クハ男ハ右ニ居ルヘキ答ニト云レシ 此右ト  
云フニ

墓ヨリ云右ニ墓ニ向ヒシ  
人ヨリ云ハ左ノ寸 朱子ナルホト祭ニ神主ヲナラブルニ南向キノ西ヲ  
上トスルナレハ葬リノ寸モ其通りニ夫ヲ右ニ葬ルヘキト云答ラレタリ  
此ノヲ明ノ丘瓊山論シテナルホト朱子ノ説ノ通り葬ル位モ理ヲ云  
ハ祭ノ寸ノ神主人坐例人如久葬ルヘキト云レ氏 既ニ久シク世俗ノ

習ワレトナリ来リテ男ハ左リ女ハ右ニ葬リ来レト云ニ今ヤラ若シ  
 一人タチテ忽テ其位次ヲカヘハ後ノ世ニ至リテ夫婦ヲ取テカヘニ  
 キトニ非スサアレハヤハリ朱子劉夫人ヲ葬ラレニ通リニ世上ナニニ夫  
 ヲ左妻ヲ右ニ葬ルヲ好シトスヘシト云レハ唐ニテハ右ノ如ク多ク夫婦  
 葬ユヘニ妻ノ碑ヲ別ニ建ルト云フハ稀ニノ多ク夫婦ヲ一碑ノ内ニ  
 題署ス其題署ノ法夫ハ正中ニ題書シ妻ハ其左ニ女左ト云ハ墓ニ  
ヒシ人ヨリ云左ナリ  
 ガク低ク文字モ少シ細ク妻某氏之墓トハカク書クナリ官人以上ハ  
 妻ノ字ヲ孺人トカ恭人トカ安人トカ其封爵次第ニ書ク毎官ノ妻ハ妻  
 書ク然ルニ朝鮮ノ李退溪ノ説ニ一碑ノ内ニ墓ト云字ヲ二ツ書クナリカ  
 レハ妻ノ方ニ墓ト云書クズメ某氏 祔ト書テ然ルヘシト云レリ誠ニ尤モ説

ニシカシ右ノ通り墓表ノ三面ニ夫ハ正中ニ題署シ妻ヲ其左ニ題署スルノ  
 法ヲ用ユハ李退溪ノ説モ尤モ氏家額ヲ上ニ掲テ文銘ヲ其下ニ記ス  
 トキノ法ハタトハ



ト書クユヘニ退溪ノ説用ルニ及ハス墓ト云字モ一字ニテヌニ回ヨリ  
 祔ノ字ヲ書クニ及ハス明以後多クハ此通りニ暨配ノ二字ヲ入テ題署

スカクノ如ク上ニ一ツ、キニ書クエヘ  
本邦ニテハ右ニ去通り夫婦合  
葬ニ難キヲ多ク何レニモ別ニ墓碣ヲ建子ハナラヌヲ多キエニ別ニ夕  
ツルハ必右ニ去通り題署スヘシ是禮ノ正法ニ又右ノ外ニ略レタル書  
法一ツアリ是レハ其夫ノ存生ニモ死後ニモカワラズノ唯其夫人論  
号ト氏トハカリヲ題スタトハ其奥方ノ院号ヲ順静院ト云ハ其  
院ノ字ヲ除キ去リテ順静ノ二字ヲ諡号ト極ノ漢高ノ先媪ヲ昭靈  
夫人ト稱セシ類ニ准シテ

順静夫人某氏之墓

ト題ス是ハ夫ノ存世ニテモ夫ノ死後ニテモ如此題ス是レ正法ニ非ス  
ト之ヘ氏畧ニテ而不失其正書法ニ

○又凡ノ諸侯ノ若殿ヲ世子ト稱ス世子ノ墓碑ノ題署ノ法ハ外

トハ加藤清正ノ世子ナレハ

肥後侯世子私諡加藤君之墓

ト題ス或ハ侯ノ字ヲ省キテ肥後ノ世子ト加藤君之墓ト題  
スルモ可シ又或ハ晋侯世子申生ヲ恭世子ト稱シ梁ノ蕭統ヲ昭  
明太子ト稱シ明ノ朱載堦ヲ哀冲太子ト稱シ朱載堦ヲ莊敬  
太子ト稱スル類ニ准ノ某侯ト之ヲ題セスレテ唯其私諡ト姓トヲ  
用ヒテ

私諡世子加藤君之墓

トハカリ題スルモヨシ若シ幼年ノ早世トハ唯諡号ノミヲ稱シ姓

引除キテ  
諡号  
世子之墓

トガリ題スルモ好シ元服以前ノ早世ヲ殤ト云殤ニ四段アリ十  
六歳ヨリ十九歳ニテノ早世ヲ長場ト云十二歳ヨリ十五歳ニテ夕  
中殤ト云八歳ヨリ十歳ニテヲ下殤ト云七歳ヨリ以下ヲ每服ノ殤  
ト云生レテ未タ三月ナラセハ殤氏称セズ聖人ノ禮法ニ凡ソ殤  
ノ喪ハ其葬礼ヲ端成人ノ者ノ如クニハセスノ輕ク取アツカフコ  
故ニ墓碑ノ題モ如此畧シ題スルモヨレシカシ古ハ二十而冠リスル  
礼コヘ二十九以下ヲ皆殤ト云ヘ 本邦ニテ今時ハ別シテ二十ヲ待  
スシテ早ク元服スルハ既ニ元服セル人ヲ殤トハ称スヘカラス元服

以後萬端成人ノ如ク取アツカフヘキト勿論ニ凡ハ世子ハタトヒ受領叙  
爵以上タリ氏家督相續以前ハ公ト称スヘカラス君ト称スヘシ公ト称  
レハ極メテ家督相續以後ノ辞ト云故ニ世子ハタトヒ高位タリ氏唯君  
ト称スヘシ故ニ國語晋ノ世子甲生ノコヲモ諡シテ為恭君ト云ヘリ総体  
公ノ字君ノ字ノ一温公書儀朱子ノ家礼ナトノ石官則某公之  
墓ト題シ每官則某君之墓ト題スト云ル類ニテ見レハ公ノ字ハ尊ク  
君ノ字ハ卑キ様ニ見ユレ氏強キ尊卑ノ差別トモ極メカクソレライ  
カニト云ニアノ方ノ諸大家名家ノ文集ノ碑文ノ題ナトモ歴々ノ貴  
キ官人ニ某君ト題シ輕キ官人ニモ某公ト題シ又每官每爵ノ士  
ナトモ公ト称セシ例イクラモ有リ此等ノ一兼テヨタノ講究スベシ

ナルホト公ノ字ハ一通リノ無官ノ人ニハ施サレヌ字ニ諸大家名家ノ文集ニ毎官毎爵ノ人ニ公ト称セシハ君ノ字ハ上ニ

即一人ヨリ下モ萬民ニテモ通用ノ尊称ニ故ニ天子ヲ大君トハ称シ奉

レ臣大公トハ称シ奉ルヘカラス萬象君聖明君繼體君明君聖

君ナトハハ称シ奉ルヘケレモ皆公ト称スヘカラス周ノ未ノ夫子ヲ

西周君トハ称スレ臣西周公トハ称スヘカラス朝鮮ノ太子ナトモ臨海君

トハ称スレ臣臨海公トハ称セス皇太子ナトモ儲君トハ称スヘケレテ

儲公トハ称スヘカラス

東照君トハ称シ奉ルヘケレ臣

東照公トハ称シ奉ルヘカラス六経ナトモ凡ソ君ト称スルハ皆天子諸侯

ヲサレテ去辞ニ加様ノ類ハ君ノ字甚尊ク公ノ字却テ卑シイカニ  
君ト云ハ其辞廣ク大ニメ上ニ天子ヨリ下モ萬民ニテモ通スル尊称ナリ  
公ノ字ハ上ニ天子諸王ニ用ユヘカラス又諸公ノ世子公子ナトニ用ユヘカラス  
其用處限リ有ル字ナレハ之故ニ有官人ノ上ニテハ称スル所ノ場ヨリテ  
公ト云モ君ト云モアチカチニ優劣有ルニ非ス故ニ諸大家名家ノ文集  
或ハ歴々ノ貴官ノ人ヲモ君ト称シ或ハ卑官ノ人ヲモ公ト称シ毎官毎  
爵ノ人ヲモ人ニヨリテ公ト称セルトコトハリ之故ニ公ト書テモ君ト書テ  
モアチカチニ甲乙アルニ非サレ臣唯諸侯ノ世子家督相續以前ハ公  
ト称スヘカラス必ス君ト称スヘキ  
○又凡ソ諸侯ノ二男三男以下ヲスヘテ公子ト称ス公子ノ墓碑ノ頭

署モタトハハ

肥後侯公子私諡加藤君之墓

ト題ス是レモ侯ノ字ヲ省キテ肥後ノ公子私諡加藤君之墓ト題

スルモ可之又或ハ某侯ト云テ題セスレテ

私号公子加藤君之墓

ト題スルモヨシモシ元服以前ノ殤ナラハ姓ヲモ題セスレテ

諡号公子之墓

トハカリ題スルモヨシ

○又凡ソ諸侯ノ息女ヲ女公子ト称ス故ニ每夫諸侯ノ息女エハ

私諡女公子某氏之墓

ト題スヘシ又王侯ノ女ヲ翁主トモ称ス漢書ノ高祖本記ノ註ニ諸王

女曰翁主トアリ王吉カ傳テ本文ニハ諸侯ノ女ヲ翁主ト云ヘリ必竟王侯

ノ女何レモ皆翁主ト称スバニハ物但祿ナトモ甲斐信玄ノ息女

ヲ翁主ト書キタリ然レモ三品以上ノ国侯ニアラスハ翁主トハ称スヘカ

ラス三品以上ノ国侯ハ翁主ト称スルモ可シ翁主ト題スルナラハ

私諡翁主某氏之墓ト題スヘシ

○諸大夫以上ノ御旗本ハ公ト称スルノ曾テ僭越ニ非ス諸大夫以上ニテ

御役人名ハ猶カラソト之右ニ云ヘル通り家礼書儀ナトモ有官

則テ公ト法ナル上大夫以上ハ右ヨリ公ト称スルノ通例ニ本邦ノ俗人公

トサヘイレハ公卿大夫ハ公ト公侯伯子男ノ公トト思テハ固陋ノ至



カサ毎々之ハ通り加様ノ時ニ用ルル字ハ曾テ公爵ノ字義  
ハ唯尊稱ノ公ノ字ニハ每位毎官ノ出家ノ有惠遠ノ徒  
モ支公ノ稱シ遠公ト稱スルナクハ受領叙爵以上ノ人ヲ公ト  
稱スルナクハ僭越ニナケレバ俗人ノ非評ヲ慮リテ是非ハ公上稱  
スルヲ憚ラズ君ト稱スヘシ是モ毎々之ハ通り君ト稱スレハトテ強ラニ  
公ノ字ヨリ劣リテ稱ト云フニハ非ヤハサテ有官則必題官名  
法テ官職ト云ハ更別ノコトニハ毎々即俗ニ云御役義ノト云ヘ御役人  
ハ極メテ其役名ヲ題スヘキナレバ武家ニテハ唯御役義ト稱シテ  
是ヲ官トハ稱セズ武家ノ官職ノ名号イニ立サルコト御役名ヲ  
題スヘキ様ナシ強ニ漢官ノ名ニ引アテ、是ヲ稱セシメテ面々ノ

思ヒ寄ニテアツルコトニ人々ノアテ様人々ニテ相違セシモ多ク其上ハ漢官  
ノ名ニヒキアテラレハ御役モアリ決メ漢官ノ名ニツテハ引アテラレ又御役  
モアリ又其職掌ハ的當ニナカシ其品階ノ高下倂漢大キニ相違セ  
ルアリ品階高下ノ相違ニテ大ニ僭越ニナルニ大ニ降等ニ落ルモアリ  
故ニ今テノ武家ノ御役名ヲ漢官ニ引アテ、題署スルコト下タル身トメ  
ミタリニナスヘキコトニ非ス誌傳記述碑文ナトノ類ニハキツト官名  
ヲ出ラニハ非スレテ唯掌其職曲甚ク事ナト、書クコトニイカ様  
カシカシキ入クニタル御役ノコトニテモ雅文ニナラサルニ墓碣ノ面  
神主ノ粉面ナトノルイ其外一切ノ題署ニハキツト的當ノ官名ニ非  
サレハ題スヘカラスカレハ唯

皇朝ヨリ賜リシ受領叙爵ノ天下後世ニ推シテ相違ナキ官爵  
ハ諸大夫以上ノ御旗本ハ御役ノ百無ヲ論セシテ唯其受領  
叙爵ノ官爵ヲ題スヘシ其役義ノハ碑文ニ述ヘ誌スルハ是非  
正面ニ題署スルニ及ハズ下ニ故ニタトハ

從五位兵部少輔私謚加藤公之墓

從五位修理亮私謚加藤君之墓

從五位伊勢守私謚加藤公之墓

從五位織部正私謚加藤公之墓

ト題スルヲ宜シトス若シ隱居ノ後ノ死去ナラバ

從五位兵部少輔致仕隱居名府君加藤公之墓

從五位伊勢守致仕私謚加藤君之墓

ト題スヘシ凡有官ノ人ノ隱居皆此例ニテ准知スヘシ此書法ハ韓文  
ニ見ル諸侯ハタトヒ隱居タリト致仕トハ題スヘカラスイカナハ侯トハ  
格式ノ名ニテ官名ニアラス官ハ役義ノトユヘニ隱居ナレハ致仕ノ二  
字ヲ題ス侯トハ格式ノ名ニテ仕ルトニナルトニヨルトニ非ルヲ以テ之若シ  
諸侯ノ隱居ナラハ碑文ニ隱居ノウケヲ書ソヘシ正面ニ書クニ及ハズ若  
ト稱シ公ト稱スルトハ其人ニヨリテ何レニヒ沙略シ題スヘシ改ニ前ニ  
公ト通シテ御旗本ニハ私謚ニ府君ノ二字ヲ配シテ  
從五位兵部少輔ト府君加藤公之墓  
ト題スルモ可シ本邦ニハ代ニ其家格ニテ先祖父祖ノ受領セシ

官名ヲ襲受ル類多キユヘニ私諡ヲ題セサハ混同スルユニ私諡ヲ  
題スルヲ宣シトス生前ニ號アラハ私諡ヲ題セズシテ号ヲ題スヘシ又  
世間ニ受領モセスシテ兵部修理織部主税主計主水何右衛門  
何兵衛ナト私ニ官名ヲ稱ス類多キユニ位階ヲ題セサハ右ノ私ノ  
俗稱ノ類ニ混スルユヘニ極メテ位階ヲ題スルヲ宣トス右ノ外内膳正  
縫殿助玄蕃頭兵庫頭大膳亮右京亮左京亮ノルイ  
<sup>其外</sup>百官百職ノ名皆漢名ニナラサシテヤハリ受領ノニ、官名  
ヲ題スヘシ必漢名ニナラサヘカラスナラセハ極メテ右ニ云シ通り倭漢  
ノ相違ニテ大ニ尊卑高下ノ相違アル類多シ職原抄ノ充極ナトモ  
埒モナク大ニ謬レルト多シ職原抄ノ充テ様ナト必極トナシヘカラス其

上既ニ定ニル 本邦ノ官名ヲ漢官ニアラタメ稱スルト大ニ非禮ノイ  
ニシテタトヒカリソノ詩文章筆札ノ題署ニモナスヘキトニ非ス況ヤ  
本邦ノ官名皆古ヘハヤリテハヤリテハヤリテハヤリテハヤリテハヤリ  
王室ノ盛ニナリシ時定メラレシ名稱ユヘニ其名義ノ雅正曾以テ漢唐  
ノ官名ニ恥テス何ヲ故ニカ是ヲ漢官ノ名ニ改メ稱スヘキヤ故ニ凡ノ官  
名ハヤリ 本邦ノ定リ通りノ名稱ヲ題スヘシ守名ナトモヤハリ何  
ノ守トハカリ題スヘシ太守トハ題スヘカラスアノ方ニテモ秦漢ノ守ハヤリ  
守トハカリ稱セシトニテ秦ノ時李由為三川守ナト史記ニ記セシ類  
本邦ノ三河守ト云ニ何モカワルト無ケレ氏曾ツテ不雅ニ非ス守ヲ  
大守ト改メ稱セハ漢景帝ノ中元二年ヨリ以來ノトニテシヨリ前

ハアノ方ニテモヤハリ守トバカリ称セシム本邦言テハ既ニ守トバカリ  
称スルニ定メ置キ玉ヘ上ハ何ノ故アツテカ強テ漢ノ景帝以来ノ  
名称ニ擬シテ太守ト称スヘケシヤ凡テ是等ノニ限ラス公卿ノ官  
名ナトモ詩文筆礼ノ題署ニ漢官ノ名ニ改メ題ナルト甚心得サ  
ルトニ凡テノヲ俗ヲ雅ニ易ヘ陋ヲ文ニ改メ夷ヲ華ニ変スルハ学者  
ノ先務ナレモワケモナク唯何事モ滌ニ似ヤタカルト云トハ其以将モ  
無キトシ本邦ノ官名隨分皆雅正ニシテ曾テ野鄙陋俗ナ  
名称ニ非ス然ルヲ中古以来公卿縉紳ノ徒ヲ始トメヤモス  
レハ中納言ヲ黄門ト称シ少納言ヲ給事ト称スル類其外一  
ヲトシテモツトモナラス兎角何事ニヨラス倭漢ノ名別ナク俗

ヲ雅ニ易ヘ陋ヲ文ニ改ルハヨシ唐ニ似セルト云ハ惡シ、何トシテモ是  
等ノ界何ニ限ラスヨクク會得スヘシ本邦ノ好キト云ハ何卒異國  
ニテモ似ヤサスルコソコトハリナルヘキニ然モ引アテ違ヒ尤黄門給事ノ  
類ノ名称ヲ似ヤ称スルト云ク心得サルトシ  
○然ラハ諸侯ニハ某受領叙爵ノ官位ヲ題セス皆其封地ヲ称  
ノ某侯ト題署シ諸侯多クナル人ニハ其官名位階ヲ題セヨトハ  
イカニト云フニ凡ソ官職ヲ題署スル法正官ト兼官ト尊卑ニツ  
兼帯セル人必ス先ツ其正官尊官ヲ題署スルト勿論今テ  
諸侯ハ刺史太守ト云リハハルカニウケアカリタル尊キモノニテ  
本邦ノ守ト云フハスナクワケアリ方ノ太守ノトシテ諸侯ニクワケ

ハ甚輕キモノノ諸侯ト云ハ即ケトリモナラサズ今之大名ノトテ  
大名ハ大名ト云カウモ役之官上ハ役義ノ爵トハ格式ノトニテ  
大名ハ大名役アリ格式有其重キ大名役ト尊キ大名格トヲサ  
シテキテ輕キ方ノ官名ヲ題署シヒキ方ノ爵位ヲ題署スヘキ様  
ナシ其上ハ大名ノ身ニシテハ大名ト云ハ其實爵ヲ受領ト爵トハ  
虚称之其實爵ヲサシ置キテ其虚号ヲ題署スヘキ様ナシユヘニ  
大名ハ先ツ其大名ト云フヲ重モニ題署スヘシ故ニ必ス某侯ト題  
スルヲ宜トス其受領叙爵ノトハ其碑文ニ述ヘ記スユヘニ題署ス  
ルニ及ハズト云ハ大名ト云カ綱ニテ其受領叙爵ハ目之又諸  
大夫以上ノ御旗本ハ

王室ヨリ賜リタル官爵ヲ題セサレハ外ニ官爵ノ題シ様ナシ前ニモ云  
通り其實官實録ノ御役義御格式ヲ題セントスルハ陋俗ニテ題  
セテレス漢官ニ引キ當テントスルハ改ニ前ニテ通リ害アルユヘ是亦  
ミタリニナスヘカラス又一向ニ題セサレハ平人ト混同シテ義禮ニテ  
ムク故唯其

皇朝ヨリ賜リタル受領叙爵ノ官爵ヲ題署シ其職任御役義  
ノトハ碑文ニ述ヘ記ニテ是ヲ目トスヘシ  
○サテ又諸大夫以上ノ御旗本ノ内室ヲ碑面或ハ神主ノ題署ナトニ  
夫人ト称スルヲ是亦曾テ倭越ニテアラス諸士ノ妻スラ夫人ト称セシ  
例故奉ニイ上ニアハス集子ノ讀類ニモ毎爵曰府君夫人漢

人碑已有只是尊神之辭也上蓋へり今ノ諸士下之モノハ既ニ諸士  
ト之格式ヨリテアリ方ニテ之ハ命以上ノ有爵ニテ每爵トハハス  
每爵トハハ一向之格式モナキ人ノ下ニ其每爵人スラ夫人ト称スル  
類多シニテ既ニヤ諸大夫以上ヲヤアノ方ニテハ後世内外命婦  
ノ封號數段アリテ凡仕官人ニテサアレハ其妻其母ニ皆ソレク  
ノ封号ヲ至ワルニテ是レヲ婦人ノ封ト云朱子家礼ノ誌石ノ題  
署ノ法ナトモ婦人則云某官姓名某封某氏之墓トノ類某ノ  
官姓名下之ルハ其夫人丁ニテ其封ト云ハ即今其妻ノ封号ノ  
下ニ其封號時代ニヨルテ沿革アリ明ノ代ノ制ハ外命婦ノ封号  
王夫人淑人恭人宣人安人孺人ノセツアリ其子孫凡官ヨリテ

封セラレハ皆太ノ字ヲ加ヘテ杜孺人太安人ナト稱ス其夫アル寸  
ハ太ノ字ヲ加ヘス内命婦ト云ハ禁裏ノ後宮ノ女官ノコトニコトニ云  
ニ及ハス右ノ如ク子ノ方ニハ後世士大夫以上ノ妻ニハ皆ソレクノ格式ノ  
封号ヲ賜ハルコトニ婦人ノ名称モ極リアレ氏本邦ニテハ外命婦ノ  
制ニテキコト一切ノ題署ニ臨ニテ其尊卑ノ差別明カニ分チカタシ  
唯大凡ニ大夫以上ヲ夫人ト稱シ諸士ヲ孺人ト稱スル漢以後ノ通  
例ナレハ諸大夫以上ノ内室ヲ夫人ト稱スル下曾テ僭越ニ非ス尤モ  
天子ノ妃ヲ曰后諸侯曰夫人大夫曰孺人士曰婦人庶人曰妻  
下之ルハ曲礼ノ明文アレ氏碑面ノ題署等ニハ士ノ妻モ皆孺人  
ト題シ大夫ノ妻ヲ夫人ト題スル漢以後ノ通例ニテ所謂只

是尊神ノ辞トナリ来リ故ニ今諸大夫以上ノ妻ヲ夫人ト題署ス  
ト曾テ僭越ニハ非レ氏是モ公ノ字ト君ノ字トノ類ヲ若レ是非  
時俗ノ評論ヲ慮リテ夫人ト称スルヲ悼リ思ワ孺人ト称スルモツ  
此カラズ遂以後ノ通例ニ相違カレ氏既ニ禮經大夫ノ妻ヲ孺人  
ト称スト云明據アルハ故ニ諸大夫以上ノ御旗本ノ内室ハ其夫ノ  
死後ナラハ名トハ

從五位伊勢守和謚加藤公夫人某氏之墓

從五位伊勢守和謚加藤君夫人某氏之墓

ト題スルヲ正法トス夫トヲ君ト称スルヲハ某妻夫人トハ称セラレニ

キカト思フ人モ有ルハ左ニ非ス韓文ノ内ナト見ル其例甚多

其外諸家文集ニモ故举ニ違アラズ是亦右云ノ如ク若シ非夫人

ト題スルヲ悼ラハ

從五位伊勢守和謚加藤公孺人某氏之墓

從五位伊勢守和謚加藤君孺人某氏之墓

ト題スヘシモシ其夫イニ夕存生ノ内ナラハ是モ取前諸侯ノ夫人ノ

法ニテモ云シ如ク

從五位伊勢守實名加藤實名夫人某氏之墓

從五位伊勢守實名加藤實名孺人某氏之墓

ト題ス是ヲ正法トス若シ略シテ其夫ノ存亡ヲ論セス夫ノ官爵ヲ

モ題セスシテ唯其婦人ノ私謚ト氏トハカリヲ題ス

夫人某氏之墓 私謚

儒人某氏之墓 私謚

某夫人之墓 私謚

某孺人之墓 私謚

加藤君之墓

若シ又諸大夫以上ノ御旗本其嫡子庶子ノ官爵毎キハタト

一ハ唯

ト題ス号アラハ号ヲ題シ字アラハ字ヲ題ス字ナクハ甫以字ヲ加ヘ

テ一ノ甫加藤君ノ墓ト題スヘシ若シ諸大夫以上ノ御旗本ヨリ下

列國ノ國老諸士ノ女ニ至ルニテ毎夫女子ハ

孺子某氏之墓 私謚

孺子某氏之墓 私謚

孺子某氏之墓 私謚

ト題ス凡ソ宣シトスモシ十八九歳以下ノ女子ナラハ

小嬢某氏之墓 私謚

嬢子某氏之墓 私謚

ト題ス嬢与娘通用リ字ニテ女ノ惣名ニテ老婆ニテモ小女ニテモ右夫

女ニテモ室女ニテモ卑行ニテ尊行ニテ通用ノ辞ニテ唐糸以来ケ様

ノ處ニハ皆嬢子小嬢ナト書キ来レリ柳宗元其外甥女何東



ハ薛吳カ妻ノ崔氏ヲ祭レル文ニモ叔舅宗元祭二十六娘子之  
靈トモ書キ又叔舅宗元祭薛氏婦崔氏二十六娘子之靈トモ  
書韓退之其姪女周況カ妻ヲ祭レル文ニ祭周氏二十娘子之靈  
ト書ト姪孫女李子テカ妻ノ祭ルニ祭李氏二十九娘子之靈ト書キ  
十二歳ニテ死去セシ我カムスメヲ祭ルニ祭第四小娘子祭之靈  
ト書キシ類其外室女ヲ呼ニテ娘子ト称シ妓ヲ呼テ某娘子ト称  
シ母ヲ呼テ嬢ト称シ母后ヲ称シテ嬢ト云ヘル類枚挙ニ遑アラズ  
老幼尊卑有夫無人通テ婦女ヲ称スル辞ニ東厓先生ノ釋親  
考ノ續篇ニ娘子ノ二字ニオクサニト譯ヲ付ラレシハ誤ニオクサニ  
限リシトニ非ス婦女ノ通称ニ故ニ諸大夫以上ノ御旗本公侯

ノ部屋方或ハ産母ト云ヘル類夫人孺人ニ非サルニハ皆一嬢某  
氏之墓ト題スヘシ

○無爵ノ御旗本ノ諸士ヨリ諸邦ノ国老并ニ諸士ニ至ルニテ題署  
ノ法ソレノ等級差別書キ分ケ様アルヘキトナレ

上ヨリ命爵ナキ上ハ其差別何レモ書カケカクシ又強テ分タントスレハ  
極ノテ名分ヲ僭越スルト多シ又ソレノ役義ノ名ヲ濫官ニ當テ  
題セントスレハ前ニモ云ヘ通り面々ノ思ヒ寄リニテ其當ヲ様相違アリテ  
一定ノ法トシカタク又或ハ牽強ニ陥リテ却テ名分リ乱ルトモアリ其  
上ハ濫官ニアラレタルノ役名モアリ當ラレヌ役名モアルニハ僅カ一  
行題面ニテハ其差別書キ分様ナシ唯其差別ハ碑文ノ内ニ記



私謚 子某君之墓

某君 子之墓

ト題スルモ好シ子ハ甲子ノ羨稱ニテ儀礼ノ特牲饋食礼ニ其祖

ヲ祭ル詞ニモ皇祖某子ト稱ス某トハ伯仲ニ其祖ノ字ニ子ノ字

ヲ加ヘテ伯子仲子ト稱スル一ニ其外後漢益州刺史朱穆卒セシ時

其門人陳季珪等議シテ私ニ謚ノ思文子朱君ト稱シ陪處士

王通死セシ時其徒私謚ノ王君文仲子ト稱セシ類官爵ノ右無高

下ヲ論セシテ子ノ字ヲ以テ私謚ニ配稱セシ例古ヨリ其類頗ル多シ

故ニ無爵ノ御旗本ニテ先生トモ題シ難キ人ハ人ニヨリテ此例ヲ用ヒテ



子字ヲ私謚ニ配シ題スルモヨシ

